



2023

THE ASAHI SHIMBUN
SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

朝日の社会福祉

令和5年度事業報告
2023年4月1日—2024年3月31日



だれもが安心して暮らせる社会の実現を

現在、国内では断続的な物価高による支出の増加が収入の増加を上回っており、経済的な格差は狭まることなく、人々の将来への生活不安が高まっています。また、本年1月に起きた能登半島地震によって、多くの方の生活基盤が脅かされました。猛威をふるった新型コロナウイルス感染症は、2023年5月に感染法上の分類が季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられたことで社会活動は活発化していますが、福祉の現場ではまだコロナ以前の状態に戻れていない部分も見受けられます。

こうしたなかで朝日新聞厚生文化事業団は、23年度も助成事業をはじめとした多くの社会福祉事業を実施することができました。ご協力をいただいた支援団体や関係機関のみなさまに、心より御礼申し上げます。

私たちがこれまで力を入れてまいりました社会的養護出身の学生に奨学金を贈る「進学応援金」事業では、進学応援金を贈る大学生ら「応援生」と事業団がタッグを組んで、社会的養護にある中学生や高校生にアドバイスやエールをおくる活動を引き続き行いました。23年度は、当事者による当事者のための新しい形の「権利ノート」の制作、様々な団体が連携し奨学金情報等を発信するインターネットサイトの構築、応援生自らが進学体験や思いなどを、里親会などの場で直接伝える「進学情報シェアセミナー」に新たにトライしました。

このほか、発達障がいのある人がのびのびと自身の能力を発揮しながら生活していけるよう、当事者に寄り添う支援や居心地のよい環境整備に尽力している団体に助成する「発達障がい地域生活応援助成」事業や、障がい児や医療的ケア児の親の就労問題を考えるセミナー、認知症関連事業、災害復興を支える事業なども手がけることができました。私たちのさまざまな活動全般を、この事業報告書を通じて知っていただければ幸いです。

お互いに支え合い、だれもが安心して暮らせる社会を実現したい——。私たち朝日新聞厚生文化事業団はこれからもこのミッションを掲げ、福祉の向上につながる「地域づくり」「人づくり」「支援の輪の拡大」の三つの視点に沿って、積極的に活動してまいります。

今後とも事業団の活動への温かいご支援、ご協力をなにとぞよろしくお願い申し上げます。

2024年6月

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

目次

だれもが安心して暮らせる社会の実現を	1
--------------------	---

社会福祉事業

■ 児童福祉事業

児童養護施設・里親家庭等進学応援金	4
児童養護施設・里親家庭等進学応援金 ぴあ活動（すだちず、Miomus、進学情報シェアセミナー）	5
児童養護施設・里親家庭等進学応援金 ぴあ活動（ぴあ応援フェス、ぴあ応援ブック、ぴあ応援ラジオ）	7
自立援助ホーム・子どもシェルターまなび応援金	9
まなび応援フォーラム	10
災害時こども福祉応援金・生活救援金	11
オンラインセミナー ヤングケアラー・貧困 子どもと家族を孤立させない	12
連載インタビュー「保育の質」を考える	13

■ 障害者福祉事業

連続セミナー 障がい児・医療的ケア児の親と就労	14
「発達障がい」とともに生きる 豊かな地域生活応援助成	15
ワークショップ 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム	16
子どもの立場ピアサポートフォーラム	17
精神疾患の親をもつ子どもの会 こどもぴあ高知けんぴ 立ち上げフォーラム	18
精神疾患の親に育てられた子どもの立場の「つどい」	19
第40回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト	20
第43回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会	21
障がいのある人の就労支援事業 パン販売・地域つながりマルシェ	22
連載インタビュー「障がい」ってなに？	23
第42回肢体不自由児・者の美術展／デジタル写真展	24

■ 高齢者福祉事業

認知症フレンドリーキッズ授業	25
認知症マフワークショップ	26
高齢者施設訪問事業 ゆうゆうビジット	27
朝日高齢者福祉セミナー2023	28

■ 被災地支援

能登半島地震救援金／東日本大震災へのご寄付	29
朝日のあたる家	30
災害時大学ボランティアセンター支援	31

公益事業

■福祉啓発・公衆衛生事業

すくすくの森相談室	32
自殺予防公開講座	33
西部朝日福祉助成金	34
第75回保健文化賞	35

■チャリティー事業

朝日チャリティー美術展	36
朝日チャリティー色紙展	37
第73回チャリティーコンサート　メサイア	38
親子で楽しむクリスマスコンサート	39

朝日福祉ガイド　本・DVD	40
---------------	----

主な後援・協賛・協力事業一覧	41
----------------	----

収支／寄付報告	45
---------	----

中期計画 2025	46
-----------	----

名簿（理事・監事・評議員／職員）	51
------------------	----

事業の名称	児童養護施設・里親家庭等進学応援金
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	公益財団法人原田積善会（協賛）
事業開始年度	2008年
事業の概要	児童養護施設、里親家庭、自立援助ホームで暮らし、大学などで学ぶ方に、入学金10万円と卒業まで毎年30万円の返済不要の奨学金を贈る事業です。また、応援生とともに社会的養護の未来に貢献するための「ぴあ活動」を実施しています。
時期	5月に募集開始。
助成の目的	社会的養護で育った人の自立支援。
助成した人数	67人（在学学生45人、23年4月入学生22人）
助成総額	応援金給付 総額2330万円 ※23年度支給分。療養のための休学者1人への手当10万円を含む。
その他	<p>本事業は、朝日新聞厚生文化事業団に寄せられたご寄付と山岡子ども応援資金などによって行っています。</p> <p>本事業へのご寄付：READYFORクラウドファンディングでのご寄付383万1500円（のべ198人）、直接寄付619万4705円（のべ177人）</p> <p>■ぴあミーティング</p> <p>応援生が交流を通し、「ぴあ活動」を推進させるきっかけをつくる集いを、24年3月26日に朝日新聞東京本社読者ホール（東京都中央区）で開催。応援生45人が参加し、以下の活動を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク「アフターケアについて」 ・グループワーク「ぴあ活動体験ブース」

川島成道さんのデビュー25周年コンサートに応援生が参加

応援生の活躍の場を広げることを目的に、バイオリニストの川島成道さんとピアノを専攻する応援生、林陽菜さんのコラボレーション企画を、2024年3月23日に浜離宮朝日ホール（東京都中央区）の「川島成道チャリティーヴァイオリン・リサイタル」の会場で実施しました（397人が来場）。



林さんは、コンサート開催前のプレ・ミニコンサートとして、「愛の挨拶 作品12」（エルガー）「チャルダッシュ」（モンティ）などを川島さんのバイオリンに合わせて演奏しました。

林陽菜さん：2001年生まれの21歳。両親と離れて育ち5歳の時に里親と出会い、6歳からピアノを習い始め、様々なコンクールなどで挑戦を続けています。

事業の名称	児童養護施設・里親家庭等進学応援金 ぴあ活動 (すだちず、Miomus、進学情報シェアセミナー)
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
主催	すだちず～社会的養護を巣立つ私たちが自分らしく未来を描くための権利マップ～：すだちず制作委員会、朝日新聞厚生文化事業団 社会的養護のための奨学金検索サイト Miomus：Miomus ネットワーク 進学情報シェアセミナー： 名古屋セミナー 特定非営利活動法人名古屋市里親会こどもピース 神奈川セミナー 全国児童養護問題研究会神奈川支部
後援等	すだちず： 全国児童養護施設協議会、公益財団法人全国里親会、一般社団法人日本ファミリーホーム協議会（以上協力） Miomus： 全国児童養護施設協議会、公益財団法人全国里親会、一般社団法人日本ファミリーホーム協議会、全国自立援助ホーム協議会、全国母子生活支援施設協議会、全国児童心理治療施設協議会、全国児童自立支援施設協議会、子どもシェルター全国ネットワーク会議（以上後援） 応援生サイト制作チーム、朝日新聞厚生文化事業団（以上協力・企画） 進学情報シェアセミナー： 応援生進学情報シェアチーム、朝日新聞厚生文化事業団（以上協力）
事業開始年度	すだちず・Miomus：2023年度、進学情報シェアセミナー：2022年度
事業の概要	すだちず： 社会的養護で暮らすこどもの将来への不安を取り除くことを目的に制作したウェブサイトです。 Miomus： 社会的養護を対象にした奨学金情報を簡単に検索できるサイトを応援生が企画し、制作しました。 進学情報シェアセミナー： 応援生が、自身の体験談や今の思いなどを養育者や中高生に発信する、出前型のセミナーです。
日時	進学情報シェアセミナー： 名古屋セミナー 11月11日（土） 神奈川セミナー 24年2月16日（金）
場所	進学情報シェアセミナー： 名古屋セミナー ウィルあいち（名古屋市） 神奈川セミナー 児童家庭センターみなど（横浜市）
事業の目的	社会的養護で暮らす中高生の自立支援。

事業の内容	<p>■すだちず</p> <p>児童養護施設や里親家庭、ファミリーホームで暮らす中高生の声をもとにした「巣立ちの準備のために気になること」「知りたいこと」に、先輩や専門家などがおくるメッセージ集です。サイトには合わせて500個を超える中高生へのメッセージがあり、社会的養護で暮らした経験のある若者を中心に有志の50人以上が制作に携わりました。全国の児童養護施設や里親家庭などの中高生にノート「とびだシート」(約1万部)を頒布し、ノートに記載してあるQRコードから、自由にサイトを訪れることができるようにしました。</p> <p>■Miomus</p> <p>社会的養護出身者が利用できる奨学金の検索機能のほか、応援生によるコラムや日本学生支援機構の奨学金の解説記事なども掲載しています。サイトの情報は、奨学金を運営する団体に直接編集していただく仕組みを取り入れるなど、新しく正確な情報が継続的に掲載されるようにしています。</p> <p>■進学情報シェアセミナー</p> <p>名古屋セミナー</p> <p>里親や児童相談所職員などが参加し、応援生4人とNPO法人ひだまりの丘理事長の蛭沢光さん、奨学金アドバイザーの久米忠史さんが講師を務めました。</p> <p>横浜セミナー</p> <p>児童養護施設で暮らす中高生や職員らが参加しました(オンラインも併用)。</p>
	<p>参加者数</p> <p>進学情報シェアセミナー：名古屋セミナー18人 神奈川セミナー29人</p>
参加費用	無料



「すだちず」のトップページ



とびだシート。全ページに中高生にあてたメッセージを掲載している



Miomus のチラシ

事業の名称	児童養護施設・里親家庭等進学応援金 ぴあ活動 (ぴあ応援フェス、ぴあ応援ブック、ぴあ応援ラジオ)
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
主催	ぴあ応援フェス：ぴあ応援フェス実行チーム、朝日新聞厚生文化事業団 ぴあ応援ブック：ぴあ応援ブック制作チーム、朝日新聞厚生文化事業団 ぴあ応援ラジオ：ぴあ応援ラジオ制作チーム、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	ぴあ応援フェス：楽天モバイル株式会社（協賛）、NPO 法人なごやかサポート みらい（大人プログラム共同主催）
事業開始年度	ぴあ応援フェス：2022 年度、ぴあ応援ブック・ぴあ応援ラジオ：2021 年度
事業の概要	<p>ぴあ応援フェス：児童養護施設や里親家庭などで暮らす中高生に、将来に関する様々な情報を届けるオンラインフェスを応援生が中心になって企画、実施しました。</p> <p>ぴあ応援ブック：児童養護施設、里親家庭、自立援助ホームで暮らし、困難を経て全国の大学などで学ぶ応援生が、後輩たちに様々な情報を届けたいと行う冊子制作です。</p> <p>ぴあ応援ラジオ：児童養護施設や里親家庭などで暮らす中高生に、将来の希望につながる様々な情報を、同じ経験がある応援生たちが YouTube や Podcast 等を通して音声で届けます。</p>
日時	<p>ぴあ応援フェス：10 月 14 日（土）、15 日（日）</p> <p>ぴあ応援ブック：8 月、9 月、24 年 1 月に発行</p>
場所	<p>ぴあ応援フェス：オンライン</p> <p>ぴあ応援ラジオ：YouTube、Podcast</p>
事業の目的	社会的養護で暮らす中高生の自立支援。
事業の内容	<p>■ぴあ応援フェス</p> <p>中高生向けのブース、大人向けのブースを用意し、すべて合わせて 52 個の多彩なプログラムをそろえました。専門家や社会的養護で暮らした社会人の他、応援生も講師役となって運営。スマートフォンを持っていないので参加できないという中高生のために楽天モバイル株式会社のご協力で、希望者に無料で端末を貸し出しました。</p> <p>■ぴあ応援ブック</p> <p>冊子の内容は、「中高生へのメッセージ」や「奨学金アドバイザーインタビュー」「今やっておくべきことと相談相手」などで、全国の児童養護施設、里親会、児童相談所など約 900 カ所に送付しています。また、「関わっている子どもたちに直接渡したい」などと追加入手の希望を受けて、20 件の里親会、子育て支援の NPO 等に 1237 部を追加送付しました。</p> <p>■ぴあ応援ラジオ</p> <p>「同じ境遇の後輩に自分たちの経験を役立てたい」と、応援生の有志が YouTube、Podcast で中高生に向けた音声・動画配信を行う「ぴあ応援ラジオ」。3 年目となる 23 年度は 15 本のコンテンツを公開しました。楽天に創業から携わられてい</p>

	<p>る小林正忠さんや児童養護施設での生活経験のあるシンガーソングライター松本哲也さんへのインタビューなどを行ったほか、「大学生のリアルな生活」、「アルバイトと学業の両立」などをテーマにした動画も制作しました。</p>
参加者数	<p>ぴあ応援フェス：延べ約 150 人</p>
参加費用	<p>ぴあ応援フェス：中高生 3000 円※ 2 日間。申込時にアンケートに答えると無料。大人 2000 円</p>



ぴあ応援フェスのチラシ



ぴあ応援ブック

事業の名称	自立援助ホーム・子どもシェルターまなび応援金
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	社会福祉法人カリヨン子どもセンター（協力）、公益財団法人原田積善会（協賛）
事業開始年度	2020年度
事業の概要	自立援助ホームや子どもシェルターで暮らす10代、20代の子ども・若者に、高校就学や資格取得にかかる費用を支援する本事業では、2023年度前後期受付分として、合わせて579人に総額6369万9415円を贈りました。
時期	2023年4月から9月までを前期、10月から24年3月までを後期とし、高校等就学、資格取得を支援
助成の目的	社会的養護で暮らす子ども、若者の修学・資格取得・自立支援。
助成した人数	就学金：のべ550人 資格取得金：のべ29人への給付が内定
助成総額	就学金：計5980万円、資格取得金：計389万9415円（一部手続き中含む） ※23年度支給分
その他	<p>■就学金：高校（全日制・定時制・通信制）などで学ぶための本人の努力を後押しすることが趣旨。6ヶ月間の就学に対して12万円を給付（返済不要）。</p> <p>■資格取得金：自立に向けて各種資格を取得する努力を後押しするために費用の実費を給付（上限15万円）。</p> <p>今年度に対象となった資格は、日商簿記、電卓検定など</p>

自立援助ホーム・子どもシェルターを利用している＆かつて利用していた
あなたの“まなび”を応援するプロジェクトです！

2023年度 まなび応援金

申込み受付中！

高校や高等専修学校での就学や、
資格取得に挑戦するあなたへ応援金を贈ります。

現在、自立援助ホーム・子どもシェルターを利用している方、
かつて利用したことがある29歳までの方が利用できます。
(詳細は裏面をご覧ください)

自動車運転免許を
とって、仕事のスキル
アップを目指したい！

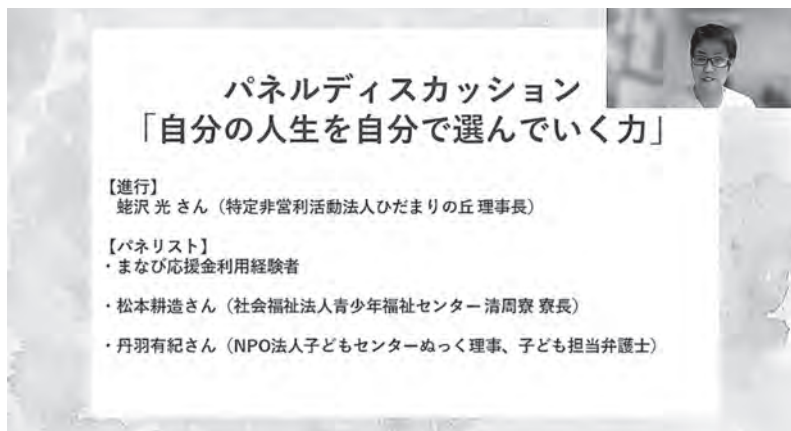
高校を卒業する！
勉強を頑張りたい！

高卒認定
試験に合格
する！

主催 社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団 協賛 社会福祉法人カリヨン子どもセンター
20230615Ver.

まなび応援金のチラシ

事業の名称	まなび応援フォーラム ～人生を選ぶ権利を実感できる社会へ～
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
主催	社会福祉法人カリヨン子どもセンター、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	全国自立援助ホーム協議会、子どもシェルター全国ネットワーク会議、アフターケア事業全国ネットワークえんじゅ（以上後援）
事業開始年度	2023年度
事業の概要	自立援助ホームや子どもシェルターで暮らす子ども・若者が、たくさんの選択肢の中から、自分の人生を自分で選び、それにむかって当たり前努力できる権利が守られることを願い、フォーラムを開催しました。
日時	9月9日
場所	オンライン
事業の目的	自立援助ホームや子どもシェルターで暮らす子ども・若者の将来の選択肢を広げる。
事業の内容	<p>■対象</p> <p>自立援助ホーム、子どもシェルターで暮らしている、または暮らしたことがある子ども・若者。自立援助ホーム、子どもシェルター職員。</p> <p>■プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> まなび応援金の紹介（カリヨン子どもセンター） パネルディスカッション「自分の人生を自分で選んでいく力」 <p>進行：蛭沢光さん（特定非営利活動法人ひだまりの丘理事長）</p> <p>パネリスト：まなび応援金利用経験者3人、松本耕造さん（社会福祉法人青少年福祉センター清周寮寮長）、丹羽有紀さん（NPO法人子どもセンターぬっく理事、子ども担当弁護士）</p>
参加者数	36人
参加費用	無料



パネルディスカッション
「自分の人生を自分で選んでいく力」

【進行】
蛭沢光さん（特定非営利活動法人ひだまりの丘理事長）

【パネリスト】

- まなび応援金利用経験者
- 松本耕造さん（社会福祉法人青少年福祉センター 清周寮 寮長）
- 丹羽有紀さん（NPO法人子どもセンターぬっく理事、子ども担当弁護士）

パネルディスカッションでは、まなび応援金利用経験者も登壇。

写真は、進行の蛭沢さん（ひだまりの丘理事長）

まなび応援フォーラムのチラシ



まなび応援フォーラム
～人生を選ぶ権利を実感できる社会へ～

自立援助ホームや子どもシェルターで暮らす子ども・若者が、たくさんの選択肢の中から、自分の人生を自分で選び、それにむかって当たり前努力できる権利が守られることを願い、フォーラムを開催します。

子どもを通して自分をもち、人生を自分で選べる力があることを知ってもらい、私たちが暮らし、2023年9月に、自立援助ホームや子どもシェルターで暮らす子どもたちの将来の選択肢を広げるための「まなび応援金」をスタートしました。多くの子ども・若者に利用していただき、2022年度までの3年間の累計で、累計1130人に利用するところまで進みました。

高校進学や就職活動という学びの先に、どのような夢を描いていますか？
社会的弱者の子にたのびを伝えるには、どのような社会制度が必要でしょうか？
まなび応援金を利用した若者、職員や支援者の皆さんのお話を聞ながら、子どもたちが将来の夢や希望を描き、それにむかって挑戦することができると社会について一緒に考えましょう！

2023年
9月9日(土) 無料

13:00 オープニング
主催者あいさつ
まなび応援金の紹介
自分の人生を自分で選んでいく力

13:20 パネルディスカッション
進行 蛭沢光さん（特定非営利活動法人ひだまりの丘理事長）
パネリスト まなび応援金利用経験者3人、松本耕造さん（社会福祉法人青少年福祉センター 清周寮 寮長）、丹羽有紀さん（NPO法人子どもセンターぬっく理事、子ども担当弁護士）

14:25 クロージング
14:30 閉会

お申し込み 要 参加費無料（お申し込みは、お申し込み先にお申し込みください。 締切：9月4日(月) 申し込み先 社会福祉法人カリヨン子どもセンター内 まなび応援事務局
TEL: 03-6456-9120 E-mail: carillonoffice@gmail.com

主催 社会福祉法人カリヨン子どもセンター、朝日新聞厚生文化事業団
後援 全国自立援助ホーム協議会、子どもシェルター全国ネットワーク会議、アフターケア事業全国ネットワークえんじゅ(予定)

事業の名称	災害時子ども福祉応援金・生活救援金
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団、全国子ども家庭養育支援研究会
後援等	公益財団法人全国里親会、一般社団法人日本ファミリーホーム協議会、全国児童家庭支援センター協議会
事業開始年度	2021年度
事業の概要	豪雨や地震などで被災し、子どもが平常の生活を送ることができない状況が継続する里親家庭・ファミリーホームに、生活再建のための資金を贈ります。
時期	7月、2024年3月
助成の目的	困難な状況にある子どもたちが、日常生活を取り戻すため。
助成した人数	7月豪雨：里親家庭2（秋田県） 能登半島地震：里親家庭7（石川県）
助成総額	計130万円
その他	

全国の里親家庭、ファミリーホームの皆さまへ

もしものときの 災害時子ども福祉応援金・ 生活救援金のご案内

豪雨や地震などによる災害で、平時の生活を送ることが困難な状況の子どもたちが、日常生活を取り戻すために必要な資金をおくる救済金です。
被災した場合は、地域の里親会、日本ファミリーホーム協議会に連絡してください。



対象

災害で、家屋や近隣の道路、交通機関が被災するなどにより、子どもが平常の生活を送ることができない状況が継続する里親家庭またはファミリーホーム
※災害発生時または申し込み時点で、子どもを措置委託（一時保護を含む）されている場合に限り、養子縁組をされている場合は対象になりません。

使用可能範囲

- 子ども本人の生活再建に必要なもの
- 養育のために必要な消耗品購入費
- 養育環境の再建のために必要な家賃や車の補修、および購入費
- 養育に必要な物資・資源・資材の調達費および人件費
- その他給付委員会が特に認めた費用

生活救援金

給付は、お申し込みの方の被災の状況を給付委員会で確認し、決定します。
この応援金は、朝日新聞厚生文化事業団に寄せられる救援基金等により実施します。お申し込み内容・金額、寄せられるご寄付などによって給付額を決定しますため、ご希望に添えない場合もあります。

お申し込み

被災された方は、地域の里親会または日本ファミリーホーム協議会にご連絡ください。

■事務局 全国子ども家庭養育支援研究会
〒915-0853 福井県越前市行松町26-2-2
社会福祉法人越前自立支援協会内 電話0778-43-5514

主催：朝日新聞厚生文化事業団、協力：全国子ども家庭養育支援研究会
後援：公益財団法人全国里親会、日本ファミリーホーム協議会、全国児童家庭支援センター協議会 朝日新聞厚生文化事業団

災害時子ども福祉応援金・生活救援金のチラシ

事業の名称	オンラインセミナー ヤングケアラー・貧困 子どもと家族を孤立させない
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2023年度
事業の概要	学校生活に支障が出るほど家族のケアに追われる、衣食住すら十分に満たせない困窮の中で暮らすなど、支援を必要としながら地域の中で暮らす子どもたちへ何ができるか、様々な支援者の実践から学び、参加者とともに考えるセミナーを開催しました。
日時	9月18日
場所	オンライン
事業の目的	地域の中で暮らす困難な状況にいる子どもの現状を知り、子どもや家族支援の専門職、福祉関係者、教育関係者、行政関係者など、様々な立場の人が連携をしながら、支援のあり方を考えることを目的にしました。
事業の内容	第1部トークセッション テーマ「支援が届きにくい子どもの実態・課題」 進行：横山恵子さん（横浜創英大学看護学部長） 講師：持田恭子さん（ケアラーアクションネットワーク協会代表理事） 青木大三さん（Omoshiro 理事） 栢谷礼路さん（み・らいず2 理事） 石井花梨さん（カリヨン子どもセンター事務局長） 第2部グループワーク テーマ「子どものSOSへのアプローチ～それぞれの立場でできること～」
参加者数	第1部トークセッション：129人 第2部グループワーク：32人
参加費用	無料（要アンケート協力）



トークセッションの総括を行う、横山恵子さん



グループワークで出された意見（個人情報保護などのため一部加工）



ヤングケアラーセミナーのチラシ

事業の名称	連載インタビュー「保育の質」を考える ～子どもにとって、より良い保育のために～
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2023 年度
事業の概要	これまでの保育のあり方を再考し、保育の質を確保していくことが、社会的に重要な課題となっています。この連載インタビューでは、「保育の質」をメインテーマとし、保育の現状について明らかにし、どのように現状を変えていくべきか、また変えるために必要なことについて、保育に関わる様々な人にお話を伺っています。インタビュー記事は、当事業団ホームページに掲載しています。
日時	
場所	
事業の目的	保育の現状について、保育に携わる方や一般の方に知ってもらい、子どもにとってより良い保育を考えていくための連載インタビューです。
事業の内容	2023 年度は、以下の方々のインタビューを掲載しました（肩書は取材当時）。 第 1 回 福田翔さん（株式会社ソングブックカフェ・あそびうた作家） 第 2 回 村山祐一さん（保育学研究者、保育問題アナリスト、保育研究所所長、「保育白書」編集委員、社会福祉法人加須福祉会理事長、同福祉会みつまたエコ・エデュケアーセンター代表） 第 3 回 永倉みゆきさん（静岡県立大学短期大学部こども学科教授、同短期大学部部長）
参加者数	
参加費用	

事業の名称	連続セミナー 障がい児・医療的ケア児の親と就労
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	障がい児及び医療的ケア児を育てる親の会、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2023 年度
事業の概要	<p>障がい児や医療的ケア児を育てながら就労する親の、仕事と育児の両立について考える連続セミナーです。</p> <p>子の年齢で区切ることが難しい障がい児・医ケア児の子育てを念頭に置いた支援制度の必要性を訴え、親同士のつながりを促しました。</p> <p>大きな社会的課題でありながら、日ごろの育児と就労で声を上げる余裕のなかった多くの親や支援者から共感・関心が集まり、このテーマは新聞やテレビでも大きく取り上げられました。</p>
日時	第1回 7月1日 第2回 10月21日 第3回 2024年3月9日
場所	オンライン
事業の目的	障がい児や医療的ケア児をもつ親が仕事を諦めなくてもよい社会になることを目指し、障がい児育児と仕事の両立を取り巻く現状と課題を共有し、必要な仕組みや支援制度について考えると同時に、孤立している親たちが出会い、つながることを目的としました。
事業の内容	<p>■第1回「障がい児を育てながら働く 綱渡りの毎日」</p> <p>第1部 トークセッション パネリスト：工藤さほさん（障がい児及び医療的ケア児を育てる親の会会長、朝日新聞社）、池田知世さん（共同通信社）、河崎智文さん（産業別労働組合）、小林正幸さん（会社員、全国医療的ケア児者支援協議会親の部会長）、深澤友紀さん（朝日新聞出版アエラ編集部）</p> <p>第2部 グループセッション「働く仲間とつながろう」</p> <p>■第2回「取り残される障がい児・医療的ケア児の親たち」</p> <p>第1部 トークセッション 講師 田中智子さん（佛教大学教授） 平岡宏一さん（厚生労働省職業生活両立課課長） 栗原正明さん（こども家庭庁支援局障害児支援課課長）</p> <p>第2部 グループセッション「何に困ってどんな工夫をしていますか？」</p> <p>■第3回「多様性を認め合う風通しのよい社会を目指して」</p> <p>講師 野田聖子さん（衆議院議員） 富田哲郎さん（JR東日本会長） 神保政史さん（電機連合中央執行委員長）</p> <p>※司会は3回とも市川亨さん（共同通信者編集委員）</p>
参加者数	第1回 約270人 第2回 約220人 第3回 約250人
参加費用	無料

事業の名称	「発達障がい」とともに生きる 豊かな地域生活応援助成
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2022年度
事業の概要	発達障がいに由来する困りごとに寄り添い支援する活動や、その人の得意なところを伸ばすための活動に助成金を贈ります。23年度は全11団体に贈呈。
時期	募集期間：8月22日～10月13日（郵送）、10月22日（オンライン） 選考期間：11月1日～12月下旬 助成決定通知：2024年1月中旬 助成金贈呈式：2024年2月2日 助成期間開始：2024年4月～
助成の目的	発達障がいのある本人の苦手なことや困りごとに寄り添う支援や、得意分野を伸ばす活動、居心地のよい環境整備に力を注ぐ活動を応援し、また障がいへの理解が広まるよう、当事業団とともに働きかけていくことを目的とします。
助成団体	<p>■3年継続助成（1団体）</p> <p>①社会福祉法人はるにれの里（北海道）発達障がいに係わるひきこもり課題（8050問題を中心に）に対する多機関連携への試行的実践</p> <p>■単年助成（10団体）</p> <p>①特定非営利活動法人もりおかユースポート（岩手県）1社にひとり理解者を</p> <p>②認定特定非営利活動法人もうひとつの美術館（栃木県）文字表現に関する展覧会とイベント開催による「発達障がい」への啓発事業</p> <p>③特定非営利活動法人 WEL'S（東京都）障がいのある人の居場所づくりと支援団体の連携強化</p> <p>④特定非営利活動法人全国LD親の会（東京都）フォーラム「成年期以降の課題 生涯にわたっての支援をつなぐ」開催事業</p> <p>⑤発達障害当事者協会（東京都）発達障がい当事者全国意見集約づくり事業</p> <p>⑥NPO法人 HATI JAPAN 多文化多言語の子ども発達支援（東京都）外国につながる子どもの発達を包括的に理解・支援するツールの開発と普及</p> <p>⑦一般社団法人読み書き配慮（東京都）「読み書き苦手な子どものスクール KIKUTA」の地方開催</p> <p>⑧一般社団法人 Focus on（滋賀県）“共有”できるセルフケアアプリ Focus on</p> <p>⑨特定非営利活動法人セルフ（佐賀県）「発達凸凹さんフェスタ イン 相模原」～みんな持ってる凸凹ピース～</p> <p>⑩一般社団法人 sol（熊本県）発達障がい児の親が、次の悩み苦しむ親に希望を与える展示会とサイト制作</p>
助成総額	1036万8860円
その他	2023年7月にはオンライン会議システム「Zoom」を利用して、2022年度助成団体による近況報告会を行い、11団体が参加しました。

事業の名称	ワークショップ 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	福島：NPO 法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会 埼玉：「私たちの地域で考える『精神障害にも対応した地域包括ケアシステム』」 in 埼玉実行委員会 朝日新聞厚生文化事業団（福島、埼玉）
後援等	埼玉：精神障害者家族会川越市やまぶき会（協力）
事業開始年度	2020 年度
事業の概要	誰もが望んだ場所で心豊かに暮らせる地域のあり方を、精神障害がある人やその家族、支援にあたる人の視点から考えるワークショップ。全国版からスタートした当企画は、23 年度は各地域の実情にあった「理想の地域風景」を描こうと、福島県南相馬市と埼玉県川越市で開催しました。
日時	24 年 2 月 3 日、2 月 25 日
場所	福島：南相馬市民文化会館ゆめはっと（福島県南相馬市） 埼玉：ウェスタ川越（埼玉県川越市）
事業の目的	精神障害のあるご本人、その家族、医療福祉、行政関係者がともに語りあう場を創出し、地域で暮らす人の声から「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築を進め、誰もが安心して暮らせる地域づくりを行います。
事業の内容	<p>■ 2 月 3 日（福島）「ワークショップ～みんなで描く 住み心地のよいまち～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 1 部 講演 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」について 講師：古橋陽介さん（特定非営利活動法人江戸川区相談支援連絡協議会理事） 「みんなで描く住み心地のよいまち」 講師：橋本由利子さん（NPO 法人コーヒータイム理事長）（浪江町） 「みんなでつくるまちづくり」 講師：森山貴士さん（一般社団法人オムスビ代表理事）（南相馬市小高区） ・第 2 部 グループワーク <p>■ 2 月 25 日（埼玉）「自分の周りからはじまる『にも包括』」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パネルディスカッション 進行：樫村千寛さん（特定非営利活動法人サポートあおい理事長） パネリスト：荒木美緒さん（精神障害者家族会川越市やまぶき会会員） 佐藤佳与さん、戸田竜也さん（一般社団法人 SCRAP & BUILD 代表理事） 小林三紗さん（川口市保健所疾病対策課精神保健係 ※肩書は当時） 対談：菊地嘉通さん（訪問看護ステーション・スクラム管理者） 木村潔さん（地域精神保健福祉を学ぶ市民の会共同代表） ・ワークショップ「みんなで考える理想の地域風景」
参加者数	福島：48 人、埼玉：44 人
参加費用	無料

事業の名称	子どもの立場ピアサポートフォーラム
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	子どもの立場ピアサポートフォーラム実行委員会（精神疾患の親をもつ子どもの会こどもぴあ、NPO 法人ふうせんの会、コーダえん）、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2021 年度
事業の概要	全国各地で活動をしている、障害のある親や兄弟姉妹がいる家族の立場、ヤングケアラーの立場のピアサポートグループの運営に関わる人を対象にした研修交流会 2 回と、似た立場にありながら、それぞれ異なる困難を抱えてきた仲間が集まり語り合うことで見えてきた多様な支援のありかたを当事者の立場から発信し、支援者ととともに考えるフォーラムを 1 回開催しました。
日時	第 1 回：7 月 23 日、第 2 回：11 月 4 日、第 3 回：24 年 3 月 24 日
場所	第 1 回：オンライン、第 2 回、3 回：朝日新聞東京本社（東京都中央区）
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアサポートグループの発展継続のために、団体を超えて支えあうことができるピアサポートの場をつくる。 ・今現在困難な状況にいる子どもたちへ適切な支援が届くよう、障害のある人の家族の立場、ヤングケアラーの立場からの発信を行い、支援のありかたを多様な立場の人とともに考えるため。
事業の内容	<p>■第 1 回「自分を大切にするって何？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話題提供「そもそも自分って、何だろう？」 村下初海さん（コーダえん）、坂本拓さん（こどもぴあ） ・ワークショップ「自分を大切にする。って何？」 <p>■第 2 回「わたしたちがつながることの意味」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パネルディスカッション「ヤングケアラーと呼ばれて…」 進行：久永隆一さん（朝日新聞記者／元こども家庭庁担当） パネリスト：山中葉月さん（ふうせんの会）、村下初海さん、坂本拓さん、小林鮎奈さん（こどもぴあ） ・ワークショップ「つながるうえで大切にしたいこと」 <p>■第 3 回「ヤングケアラーと呼ばれる私たちが『ヤングケアラー』を見つめ直す」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッション 進行：坂本拓さん パネリスト：山中葉月さん、村下初海さん、小林鮎奈さん（ヤングケアラー協会）、居馬大祐さん（こどもぴあ）、横山恵子さん（横浜創英大学看護学部長）、福田亜紀子さん（武雄市福祉部こども家庭課） ・ワークショップ「ケアってなあに？～必要な支援を届けるために、一人ひとりができること」 進行：丸藤健悟さん（こどもぴあ）
参加者数	第 1 回：14 人 第 2 回：14 人 第 3 回：35 人
参加費用	第 1 回、2 回：無料、第 3 回：1,000 円

事業の名称	精神疾患の親をもつ子どもの会 こどもぴあ高知けんぴ 立ち上げフォーラム
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	こどもぴあ高知けんぴ、こどもぴあ
後援等	朝日新聞厚生文化事業団（後援）
事業開始年度	2023年度
事業の概要	精神疾患のある親に育てられた成人した子どものピアサポートグループ「こどもぴあ」。札幌、東京、大阪、岡山、福岡、沖縄に拠点があります。高知県にも拠点をつくらうと、「こどもぴあ高知けんぴ」の立ち上げを記念したオンラインフォーラムを開催しました。
日時	2024年3月9日
場所	高知県立県民文化ホール（高知市）
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患のある親に育てられた子どもの立場の人が出会える場・集える場を全国に広げるため。 ・同立場の存在や思いを、より多くの人に知ってもらい、理解や支援の輪を広げるため。
事業の内容	<p>対象：精神疾患のある親をもつ子どもの立場の人や支援者など、興味関心のある人</p> <p>プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演「子どもの立場について」 講師：横山恵子さん（横浜創英大学看護学部長） ・体験発表 発表者：後藤麻友さん（こどもぴあ高知けんぴ代表）、 小林鮎奈さん、居馬大祐さん（いずれもこどもぴあ副代表） ・グループディスカッション 子どもの立場と支援者等の立場にわかれ語り合い、意見交換
参加者数	41人
参加費用	無料



こどもぴあ高知けんぴの代表
後藤さんによるご挨拶



こどもの立場の体験発表の様子。
写真は、こどもぴあ副代表居馬さん



こどもぴあ高知けんぴ
立ち上げフォーラムのチラシ

事業の名称	精神疾患の親に育てられた子どもの立場の「つどい」
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	こどもびあ、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2018年度
事業の概要	精神疾患のある親に育てられた子どもの立場の人たちが集まり、自らの体験やこれまで誰にも話すことができなかった思いなど、一人で抱えてきたことを、グループにわかれて語り合うピアサポートの場を、オンラインとリアルで年度4回開催しました。そのうち2回は、支援者のオブザーバー参加も認め、子どもの立場の理解を含め、より良い支援につなげる機会としました。当事業団は運営をサポートしています。
日時	①6月25日、②9月10日、③12月17日、④24年3月17日
場所	①②③オンライン、④朝日新聞東京本社 読者ホール（東京都中央区）
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患のある親に育てられた子どもの立場の人が、仲間とつながり、生い立ちや経験を語り合い、自らの人生を豊かにするきっかけとする。 ・精神疾患のある親に育てられた子どもの立場の人が出会える場・安心して集える場をつくり、今現在困難な状況にある子どもたちがSOSを発するきっかけをつくっていく。 ・子どもの立場のピアサポート活動を後押しする。
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「こどもびあ」運営メンバー等による体験発表 ・小グループにわかれての語り合い
参加者数	①6月25日：26人、②9月10日：22人、③12月17日：17人、④24年3月17日：36人
参加費用	①②③：無料、④500円



年に1回、全国のこどもびあ（7拠点）の代表メンバーが集まり、運営会議を行っています。写真は、24年3月17日のつどいにあわせて行った様子。



「つどい」の様子。「わかる～」と書いた札を使って、共感の気持ちを伝えます。



こどもびあ「つどい」のチラシ

事業の名称	第40回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団、一般財団法人全日本ろうあ連盟、朝日新聞社
後援等	公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構 東京都聴覚障害者連盟（以上協力）、厚生労働省、文部科学省、社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団、一般財団法人日本手話通訳士協会、全日本聾学校長会（以上後援）、日本電気株式会社（NEC）（協賛）
事業開始年度	1984年度
事業の概要	全国から60人の応募があり、「私が考える多様性」「壊したい壁」「人と出会って変わったこと」いずれかのテーマを選び、原稿・映像審査を経てコンテストに出場する10人が選ばれました。コンテスト出場者は、秋篠宮家の次女佳子さまご臨席のもと手話によるスピーチで競いました。入賞者は合わせて6人でした。
日時	4月3日（募集開始）、7月11日（審査）、8月27日（コンテスト）
場所	コンテスト：有楽町朝日ホール
事業の目的	手話の普及とボランティア活動、福祉教育の推進。
事業の内容	<p>■入賞者</p> <p>1位 藤川心花（岐阜県立岐阜聾学校2年） 2位 村上桜（北海道千歳高等学校2年） 3位 山根汎夢（島根県立松江北高等学校2年） 奨励賞 栗田実果（東京都・共立女子中学高等学校1年） 染谷優芽（東京都・豊南高等学校3年） 審査員特別賞 茶屋道麻琳（熊本県立熊本聾学校2年）</p> <p>■出場者</p> <p>山崎未夢（福井県・北陸学園北陸高等学校3年）、森主美悠（愛知県・桜花学園高等学校3年）、片山愛心（愛媛県・済美平成中等教育学校2年）、穴見愛椛（宮崎県立都城さくら聴覚支援学校3年）</p> <p>※入賞者には賞状・トロフィー・盾、NECからの賞品（ノートパソコンやタブレット）が贈呈されました。また、出場者全員にNECからコンテストの録画DVDが贈られました。</p> <p>■特別プログラム 対談「デフリンピックの世界を知ろう！」 早瀬久美（昭和大学病院薬剤部薬剤師）、飯泉菜穂子（手話通訳士）</p> <p>■審査員</p> <p>小椋英子・日本手話通訳士協会相談役、川部勝一・厚生労働省障害保健福祉部企画課自立支援振興室長、山根昭治・全日本ろうあ連盟理事、河原雅浩・全日本ろうあ連盟理事、栗野達人・東京都聴覚障害者連盟会長、板垣哲也・朝日新聞社論説委員</p>
参加者数	60人（応募者）
参加費用	

事業の名称	第43回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	九州車椅子バスケットボール連盟、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	一般社団法人長崎県バスケットボール協会（協力）、長崎県、長崎市、長崎県社会福祉協議会、長崎県障害者スポーツ協会など（以上後援）
事業開始年度	1980年度
事業の概要	九州車いすバスケットボール連盟に所属するチームを中心に開いている障がい者スポーツの大会です。第1回大会から連盟とともに主催し、助成金支出などで運営を支えています。以前は天皇杯の予選を兼ねていましたが、42回大会以降は独自の大会とし、43回大会からは海外勢の参加も始まりました。
日時	12月2、3日
場所	長崎県立総合体育館（長崎市）
事業の目的	障害者スポーツの振興を図るとともに、選手同士や地域住民らとの交流を推進することを目的としています。
事業の内容	12チームが2日間にわたって熱戦を繰り広げました。決勝は海外から初参加した大邱 CityWBT（韓国）が、薩摩ぼっけもん（鹿児島）を大差で破って優勝しました。女子のみの九州ドルフィン（九州広域）が2勝をあげて4強入りを果たし、強い印象を残しました。
参加者数	九州各県と韓国から12チーム参加
参加費用	各チーム2万円



熱戦を繰り広げる車いすの選手たち

事業の名称	障がいのある人の就労支援事業 パン販売・地域つながりマルシェ
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	パン販売：2018年度 地域つながりマルシェ：2023年度
事業の概要	障がいのある人が製造するパンと手作り雑貨を定期的に販売しています。また半期に1度、パン販売のみでなく、中央区内にある就労継続等支援事業所のいくつかに協力してもらい、自主製作品やサービスの紹介をしてもらいました。
日時	パン販売：毎月1回 地域つながりマルシェ：7月4日、2024年3月21日
場所	朝日新聞東京本社本館2階コンコース
事業の目的	障がいのある人が社会で活躍するのを後押しする事業です。日ごろ障がいのある人と接する機会の少ない人には、活躍の様子を見たり接したりする機会にしてもらうことが目的です。
事業の内容	<p>■パン販売</p> <p>浜離宮朝日ホールで行われるランチタイムコンサートの開催日に合わせ、中央区知的障害者生活支援施設「レインボーハウス明石」が運営する「喫茶アラジン」のパン販売、自主製作の雑貨販売を行いました。コンサートのお客様のみでなく、新聞社ビルで働く従業員にもファンが多いイベントです。</p> <p>■地域つながりマルシェ</p> <p>7月4日の参加事業所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アリストランプ ・コンフィデンス日本橋 ・さわやかワーク中央 ・タリーズコーヒー朝日新聞東京本社ビル店 ・中央区社会福祉協議会 ・リバーサイドつつじ ・レインボーハウス明石 <p>ミニ講演協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西澤陽一郎さん（株式会社リコージャパン、介助犬をまなぼう） ・森宏明さん（株式会社朝日新聞社、パラアスリートに聞く義足の話） <p>2024年3月21日の参加事業所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アリストランプ ・さわやかワーク中央 ・リバーサイドつつじ ・レインボーハウス明石
参加者数	
参加費用	

事業の名称	連載インタビュー「障がい」ってなに？ もっと身近に、聞いて、感じて、知ってみよう！
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2022年度
事業の概要	障がいのあるご本人やご家族、ご本人を支える職業に就く方々に、社会の中で感じる「バリア」について取材。インタビュー記事を当事業団ホームページに全10回で掲載しました。
日時	
場所	
事業の目的	障がいの有無をはじめ、置かれた環境の違いにかかわらず、さまざまな人がともに過ごせる社会にするためにはどのようにすれば良いか、障がいのあるご本人やご家族、支える職業に就く方々に「バリアフリー」をテーマに話を聞き、社会に対して感じている生の声を届けるための事業です。
事業の内容	全10回のインタビューです。以下の方々にご協力いただきました。肩書は取材当時。 第1回 三枝正規さん（社会福祉法人 東京都手をつなぐ育成会・中央区立知的障害者支援施設レインボーハウス明石・主任支援員） 第2回 片平考美さん（日本視覚障害者団体連合 青年協議会会長、静岡県立静岡視覚特別支援学校小学部教諭） 第3回 増田由美子さん（社会福祉法人中央区社会福祉協議会 管理部地域ささえあい課 地域福祉コーディネーター） 第4回 野々山綾乃さん（愛知淑徳大学文学部教育学科卒業）／山本羽奈さん（愛知淑徳大学交流文化学部交流文化学科在学中） 第5回 佐藤栄司さん（障がい者就労継続等支援事業所〈就労移行支援〉コンフィデンス日本橋 理事・施設長・サービス管理責任者） 第6回 西澤陽一郎さん（リコージャパン株式会社人事・コーポレート本部 人事センター 人事部 採用グループ） 第7回 塩田祐子さん（プリズンライフアドバイザー、特定非営利活動法人監獄人権センター相談員） 第8回 近藤康子さん（特定非営利活動法人つつじ リバーサイドつつじ〈就労継続支援B型〉施設長・サービス管理責任者・社会福祉士・精神保健福祉士） 第9回 藤川心花さん（岐阜聾学校高等部在学中） 第10回 辻一幸さん（日本ブラインドサッカー協会職員、ロービジョンフットサル選手）
参加者数	
参加費用	

事業の名称	第42回肢体不自由児・者の美術展／デジタル写真展
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	社会福祉法人日本肢体不自由児協会、各道府県肢体不自由児協会
後援等	厚生労働省、文部科学省、東京都、朝日新聞厚生文化事業団など
事業開始年度	1982年度
事業の概要	全国の肢体不自由児・者から430点の絵画、コンピュータアート、書の応募作品が寄せられ、これらの中から特賞、優秀賞、佳作、努力賞の計114点、デジタル写真展では375点の応募作品の中から特賞、金賞、銀賞、銅賞の計110点が選ばれました。表彰式は第38回以来、5年ぶりに会場での表彰を復活させ、オンライン会議ツール「Zoom」と併用しながら、受賞者は現地会場で表彰を受けたり、学校、自宅などから式に参加したりしました。
日時	12月13日
場所	東京芸術劇場（東京都豊島区）
事業の目的	肢体不自由児・者の生きがいづくりと、障がいのある人に対する理解を深めることを目的としています。
事業の内容	当事業団からは、特賞のうち2作品（絵画、書）に朝日新聞厚生文化事業団賞を贈りました。受賞したのは宮口葵さん（長崎県立諫早特別支援学校中学部3年、絵画「私の好きな海」）と、佐藤卓さん（東京・筑波大付属桐が丘特別支援学校小学部3年、書「卓」）の二人。当事業団の笠原章宏事務局長は、宮口さんの作品について「海の色がとてもきれいに描けていて惹かれました」、佐藤さんの書は「バランス良く、力強く書かれていて魅力があります」と、会場まで足を運んでくれた受賞者の二人を称えました。
参加者数	
参加費用	無料



宮口葵さん（絵画）



佐藤卓さん（書）

事業の名称	認知症フレンドリーキッズ授業
事業種別	社会福祉事業（高齢者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	なし
事業開始年度	2019年度
事業の概要	小学4～6年生の児童が認知症について学ぶ特別授業です。
日時	①7月24日 ②7月29日 ③8月6日 ④8月16日 ⑤8月21日 ⑥8月23日 ⑦9月12日 ⑧9月19日 ⑨9月26日 ⑩11月10日 ⑪11月30日 ⑫12月14日 ⑬12月18日 ⑭12月19日 ⑮12月19日 ⑯2024年1月11日、18日 ⑰1月23日 ⑱1月29日 ⑲2月5日、19日 ⑳2月8日、9日 ㉑3月1日
場所	①熊取町社会福祉協議会（大阪府）②吉富町地域包括支援センター（福岡県） ③NPO まちづくりサポートクラブ（京都府舞鶴市）④精道高齢者生活支援センター（兵庫県芦屋市）⑤厚木市福祉部地域包括ケア推進課（神奈川県）⑥藤沢市辻堂市民センター（同）⑦八雲東小学校（大阪府守口市）⑧甲山小学校（広島県世羅町）⑨禁野小学校（大阪府枚方市）⑩氷室小学校（同）⑪明神小学校（徳島県鳴門市）⑫明倫小学校（大阪府枚方市）⑬宮原小学校（熊本県氷川町）⑭竜北東小学校（同）⑮竜北西部小学校（同）⑯津田小学校（大阪府枚方市）⑰世羅小学校（広島県世羅町）⑱春木川小学校（大分県別府市）⑲香里小学校（大阪府枚方市）⑳牧野小学校（同）㉑樟葉西小学校（同）
事業の目的	認知症について先入観を持たない児童期のうちから認知症の正しい知識を得て、認知症に対して差別や偏見をせず、認知症の人と地域でともに暮らす「共生社会」について考える授業を実施します。
事業の内容	授業は小学校の授業2コマ（約90分）を使用して行います。内容は3つのパートに分かれていて、最初にテキストやスライド資料を見ながら認知症に関する基礎知識を学びます。次にバーチャルリアリティー（VR）を視聴し、アルツハイマー型認知症の人が町歩きの中に感じるとされる知覚像を疑似的に体験します。関西学院大学井村研究室が制作したオリジナルの映像を使用していること、NTTExCパートナー社がこの授業のために開発した一括制御システムとスマートフォンを連動した視聴方式が大きな特徴です。これらの学習を経て、最後はグループで「認知症の人の気持ち」「認知症の人にも使いやすいお店やサービスのアイデア」をポスターにまとめるグループワークを行います。
参加者数	1,059人
参加費用	参加無料（実施する組織団体が一部を負担）



基礎学習で認知症の正しい知識を学ぶ



VR体験の様子



グループごとに発表する

事業の名称	認知症マフワークショップ
事業種別	社会福祉事業（高齢者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2018 年度
事業の概要	認知症マフは、認知症特有の症状から手元に不安を感じる人が触れたり手を通したりして落ち着けるように、さまざまな飾りを縫い付けた円柱型のニット小物です。イギリスなど海外の高齢者施設や医療機関でも使われており、英語では twiddle muff（トゥイドルマフ）と呼ばれています。ボランティアや福祉介護の専門職がこの製作、普及を学ぶワークショップを開催しています。また、全国各地のボランティアによる活動スタートや地域に向けた活動紹介もサポートしています。
日時	12月16日
場所	JR 博多シティ（福岡市）
事業の目的	認知症マフをツールとして認知症の当事者支援、当事者を支える人の支援、認知症に対する偏見を取り除くこと、認知症にやさしい地域づくりを促進することを目標としています。
事業の内容	九州地方では初めてワークショップを開催し、佐賀県、大分県、長崎県、宮崎県といった九州各県に加えて、兵庫県、愛知県など遠方からも参加者が集まりました。最初に当事業団のこの取り組みの経緯や認知症マフの基本的な情報を伝え、福岡市内で活動を始めたミーア・とも生き会代表の角田茂子さん、中間市地域包括支援センターで第1層生活支援コーディネーターの原舞さんに地域に根ざした取り組みを紹介していただきました。後半はニット作家の能勢マユミさんのレクチャーでマフを作る時間を設けました。参加者からは「地元で実際にマフを見たり話を聞いたりできて大変嬉しいし参考になった」という感想が多く寄せられました。
参加者数	51名
参加費用	3,000円



博多で開催したワークショップの様子



東京都渋谷区のボランティアグループが製作した認知症マフ

事業の名称	高齢者施設訪問事業 ゆうゆうビジット
事業種別	社会福祉事業（高齢者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2010年度
事業の概要	外出の機会が少ない高齢者施設の入所者や利用者らを対象に、音楽家の生演奏や力士との交流など憩いのひとときをお届けするプログラムです。
日時	①5月21日（日）②6月19日（月）③7月10日（月）④7月24日（月） ⑤10月23日（月）⑥11月27日（月）⑦12月11日（月） ⑧2024年1月10日（水）⑨2月10日（土）
場所	①ケアハウスしらさぎ（埼玉県さいたま市）②特別養護老人ホーム愛成苑（神奈川県横浜市）③尼崎だいもつ病院（兵庫県尼崎市）④養護老人ホーム名古屋市寿楽荘（愛知県名古屋市）⑤特別養護老人ホーム樹の里（愛知県瀬戸市）⑥特別養護老人ホーム能古清和園（福岡県福岡市）⑦特別養護老人ホーム博慈園（茨城県牛久市）⑧特別養護老人ホーム花屋敷栄光園（兵庫県宝塚市）⑨在宅複合型施設長上苑（静岡県浜松市）
事業の目的	特別養護老人ホームや介護福祉施設などで生活する高齢者の生きがいがづくり
事業の内容	①ギタリスト・福田進一さんによるミニコンサート ②俳優の日色ともゑさんによる朗読と音楽ユニット・MUZIC@NET／マリオネットのポルトガルギター・湯浅隆さんとマンドリン・吉田剛士さんによる演奏 ③バイオリニストの川島成道さんによるミニコンサート（ピアノ・宮本聖子さん）④高砂部屋の力士との交流（技の披露、相撲甚句の披露など。朝興貴さん、朝乃丈さん、アドバイザーの松田哲博さん）⑤川島成道さんによるミニコンサート（ピアノ・須関裕子さん）⑥高砂部屋の力士との交流（技の披露、ちゃんこ鍋で交流など。朝志雄さん、朝興貴さん、朝乃丈さん）⑦福田進一さんによるミニコンサート ⑧ベルリントリオ（ピアノ・宮本聖子さん、バイオリン・宮田英恵さん、チェロ・石田聖子さん）によるクラシック音楽と童謡などの演奏 ⑨日本ユニバーサルボッチャ連盟の古賀稔啓さんと渡辺美佐子さんによるボッチャ体験
参加者数	①約75人 ②約70人 ③約100人 ④約80人 ⑤約100人 ⑥約150人 ⑦約100人 ⑧約70人 ⑨約50人 /合計約795人
参加費用	無料



高砂部屋 朝乃丈さんと施設職員との取り組み（7月24日）



バイオリニストの川島成道さんによる演奏（7月10日）

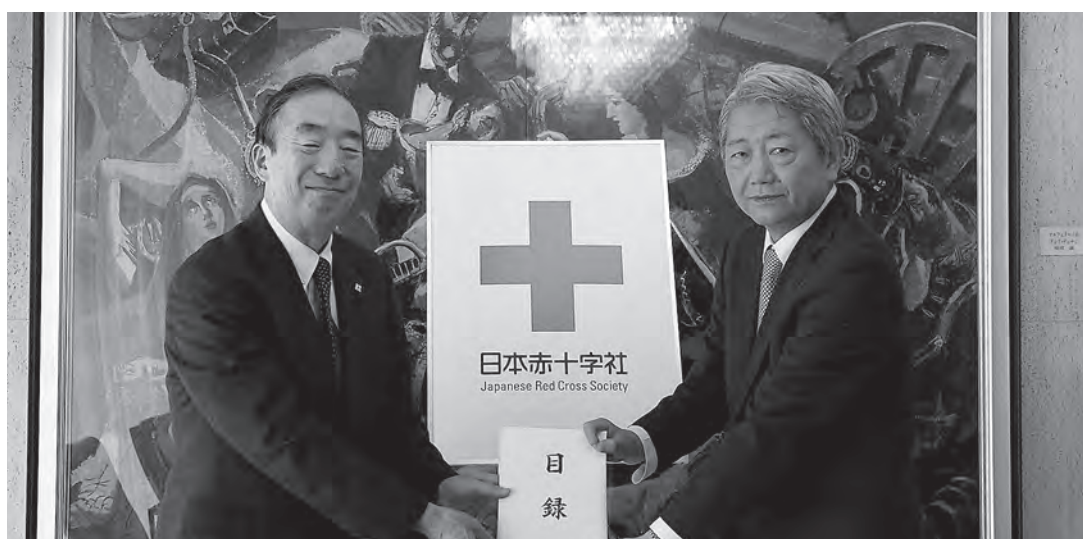
事業の名称	朝日高齢者福祉セミナー2023
事業種別	社会福祉事業（高齢者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団、愛知高齢者福祉研究会
後援等	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会ほか（後援）
事業開始年度	1989年ごろ
事業の概要	高齢者医療・福祉について様々な角度から考える実践的な研究会。保健・医療・福祉などの専門職や当事者、学生などが参加し、国の医療や年金、介護などの政策動向の研究のほか、地域で具体的に取り組んでいる在宅ケアの実践報告なども行っている。
日時	4月16日
場所	愛知県文教女子短期大学
事業の目的	保健・医療・福祉など様々な側面から、高齢者が生きがいを持って豊かに生きていくための課題を研究する。
事業の内容	<p>午前の部の愛知高齢者福祉研究大会2023では、口頭発表5名とポスター発表4名の発表があり、活発な質疑応答が行われた。</p> <p>午後の部の朝日高齢者福祉セミナーでは、「ポリファーマシー」について基調講演とシンポジウムを行った。基調講演では「病院における高齢者のポリファーマシーへの取り組み」について、亀井浩行氏（名城大学薬学部教授）が講演。その後のシンポジウムでは、「高齢者のポリファーマシー」について、小木曾加奈子氏（岐阜大学）がコーディネーターを務め、パネリストとして阪井祐介氏（名古屋大学医学部附属病院薬剤師）、金尾貴子氏（可児とうのう病院医療連携室看護師長）、皆谷和弘氏（日本調剤株式会社名古屋第一・第二支店教育情報部）が参加した。</p>
参加者数	60名
参加費用	1000円

能登半島地震

救援金を呼びかけ 約 2 億 4550 万円を日本赤十字社へ寄託

2024 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震の被災者のため、朝日新聞社と朝日新聞厚生文化事業団は 1 月 6 日～2 月 29 日にかけて救援金を募りました。期間中に寄せられた 9997 件、総額 2 億 4550 万 1766 円を日本赤十字社へ寄託しました。

全額が同社から被災地の義援金配分委員会へ送金され、同委員会で定める基準に従って市区町村等の自治体へ配分され、被災地の方々の生活支援に役立てられます。



救援金の第 1 期分として、計 1 億 9625 万 6590 円を日本赤十字社に寄託した。
目録を受け取る同社の清家篤社長（左）と事業団の藤井龍也理事長＝3 月 7 日、東京都港区

災害時子ども福祉応援金 クラウドファンディングに 190 万円

被災した里親家庭や社会的養育を必要とする子どもへの支援のため、クラウドファンディングサイト「READYFOR」を通じて災害時子ども福祉応援金への寄付を呼びかけました。1 月 12 日～3 月 31 日までの期間に、130 件、総額 190 万円が寄せられました。

東日本大震災へのご寄付、23 年度は約 91 万円

事業団の東日本大震災救援事業へ 2023 年度に寄せられたご寄付は 62 件、91 万 2493 円でした。東日本大震災救援募金（震災直後から 12 年 3 月末まで実施）も含めたご寄付の累計は、23 年 3 月末で約 9 万件、総額 37 億 5925 万 2067 円となりました。

【年度別】

10 年度：17 億 1703 万 9856 円▼11 年度：17 億 9627 万 3050 円▼12 年度：1 億 1362 万 4052 円
▼13 年度：4572 万 1384 円▼14 年度：2359 万 9869 円▼15 年度：1847 万 7091 円▼16 年度：955 万 8676 円▼17 年度：767 万 8278 円▼18 年度：774 万 7348 円▼19 年度：530 万 5268 円▼
20 年度：326 万 1002 円▼21 年度：833 万 5999 円▼22 年度：171 万 7701 円

事業の名称	朝日のあたる家
事業種別	社会福祉事業（高齢者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団、一般財団法人みらい創造財団朝日のあたる家
後援等	
事業開始年度	2012年度
事業の概要	朝日のあたる家は、当事業団の震災救援事業に寄せられた寄付金により、13年2月に岩手県陸前高田市米崎町に開設され、その後、福祉、医療という枠組みを超えた様々な地域交流プログラムを行ってきました。22年11月に一般財団法人「みらい創造財団朝日のあたる家」が設立され、これまでの会館運営が中心であった活動をさらに広げ、障がいのある人や地域の高齢者、農家の方々との「農福連携」事業にも新たに取り組み、人材が不足する農業や、少子高齢化する地域の未来を見据えた活動を展開しています。
日時	通年
場所	岩手県陸前高田市
事業の目的	東日本大震災被災地復興支援事業として実施しています。震災後、人口減少や少子高齢化による弊害が顕著に表れている岩手県内において、住み慣れた地域で、人々が支えあい、生きがいをもって暮らしていけるように様々な取り組みを行っています。
事業の内容	<p>農福連携を軸に産業と福祉の連携、産業と地域の連携、農地保全や廃棄物削減などのSDGsへの取り組みのほか、朝日のあたる家を拠点とするコミュニティー活動を通じた多世代の社会参加の機会を提供しました。</p> <p>■多世代参加型働き方支援</p> <p>雇用につながる業務分解の支援や、福祉との連携のコーディネート、現場定着支援のほか地域課題解決に必要な事業連携などを実施。また農業・食品製造業・デジタルと福祉の連携を支援しました。その他、福祉事業所や地元企業のSDGs支援や社会参加、連携促進のための情報発信に取り組みました。</p> <p>■多世代参加型生きがい支援</p> <p>昨年度より継続し、月刊誌「おはやがんす～」を配布しながらの地域住民への訪問活動のほか、アップルカフェ（認知症カフェ）、手芸の輪、いきいき・かみかみ百歳体操、通所型サービスB事業（ミニデイ：生き活き朝日）、みんなでごはんなどのプログラムを実施。また、障がいのある方々がコーヒーを淹れておもてなしする「ほっとカフェ」なども開催しました。</p>
参加者数	<p>・農福連携実績 コーディネート件数：15件、連携事業所：6事業所 連携農家：9農家、障がい者参加：124人 福祉側の受託額：233万6370円</p> <p>・会館利用者数 3840人（年間の来館者）</p>
参加費用	原則無料（一部イベントは有料）

事業の名称	災害時大学ボランティアセンター支援
事業種別	社会福祉事業（高齢者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2019年度
事業の概要	<p>災害時の早期活動を支援するネットワークづくりを進め、新たに4大学と「災害時の支援活動の協力に関する協定」を締結しました。23年度末で、16団体と締結しています。</p> <p>協定大学による研修交流会も開催し、各団体が活動を通して得た経験や学びを共有しあい、相互交流を深める機会としました。</p> <p>また、24年1月1日に発生した能登半島地震において、協定に基づき活動資金の助成も行いました。</p>
日時	協定締結、資金助成：随時 研修交流会：8月19日
場所	研修交流会：オンライン
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアに携わる学生同士の学び合いの機会、ネットワークの創出により、各地での学生ボランティア活動を発展させる。 ・災害時、被災した地域のニーズに応じた早期の支援活動ができるよう後押しする。協力関係を築ける団体を増やし、支援できる枠組みを強化する。
事業の内容	<p>■研修交流会 プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加団体紹介 ・活動発表「災害ボランティアを通して感じたこととこれからの展望」 中央大学、神戸学院大学、龍谷大学 ・ワークショップ「活動の経験をこれからの活かすために」（講義、グループワーク） 講師：早瀬昇さん（大阪ボランティア協会理事長） <p>参加団体： 関西国際大学学生防災士サークル KUISs BOSAI、神戸学院大学ボランティア活動支援室、神戸外語大学ボランティアセンター、中央大学ボランティアセンター、龍谷大学ボランティア・NPO活動センター、高崎健康福祉大学、神戸大学地域連携推進本部ボランティア支援部門 持続的災害支援プロジェクト Konti</p> <p>■能登半島地震における支援活動への資金助成 名城大学、中央大学、聖学院大学、神戸学院大学、大阪公立大学へ、被災地において行う災害発生初期の支援活動のための資金として、学生本人の現地までの交通費、宿泊費や必要な消耗品購入費等として最大で50万円を助成。</p>
参加者数	研修交流会：7大学から合計18人（学生11人、職員7人）
参加費用	無料

事業の名称	すくすくの森相談室
事業種別	公益事業（福祉啓発・公衆衛生事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	こども本の森 中之島（協力）
事業開始年度	2022 年度
事業の概要	乳幼児を育てる保護者の不安や迷いに寄り添うグループ子育て相談です。毎月1～2回、小児科医、助産師、インストラクターのいずれかを相談員に招き、①グループ子育て相談タイム②フリータイムの流れで、話をしたりおもちゃで遊ぶなど、親子で緩やかに過ごしてもらおう約80分間のプログラムです。身体測定やこども本の森スタッフによる絵本の読み聞かせも行っています。
日時	毎月1～2回
場所	こども本の森 中之島（大阪市）
事業の目的	子育て支援
事業の内容	<p>図書施設「こども本の森 中之島」でアットホームに活動しています。</p> <p>1957年から2021年まで65年間続いたあべのハルカス近鉄本店をはじめとする関西有名百貨店での子育て支援事業「アサヒベビー相談室」を継承し、大阪公立大学を中心とする小児科医、大阪府助産師会所属の助産師、インストラクターといった先生方とタッグを組んで乳幼児期の子育ての迷いや不安を抱える保護者をお迎えしています。</p> <p>6月3日には初めて父の日スペシャルを開催し、お父さん達と写真撮影を通じて親子のコミュニケーションや愛着形成を増進するヒントを学ぶ講座も好評でした。また、9月2日には「発達障がいの特性を持つ子どもの力を引き出すコミュニケーション」というテーマで講演会を開催し、学校作業療法によるアプローチを保護者や療育に関わるさまざまな専門職のみなさんにご紹介しました。</p>
参加者数	337人（相談室）、80人（講演会）
参加費用	無料



助産師の渡邊和香さんと話す親子



こども本の森 中之島のスタッフによる
絵本の読み聞かせの様子

事業の名称	自殺予防公開講座「いのちをたいせつに」
事業種別	公益事業（福祉啓発・公衆衛生事業）
主催	社会福祉法人福岡いのちの電話、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	福岡県、福岡市、KBC、朝日新聞社（以上後援）
事業開始年度	2005年度
事業の概要	国内の年間自殺者が2万人を超える中、自殺の予防につながる講演会を年に1回実施しています。誰でも無料で参加できます。一般の方はもちろん、「いのちの電話」のボランティアスタッフからも毎年多数参加しています。
日時	2024年3月20日
場所	レソラホール（福岡市）
事業の目的	自殺予防の啓発はもちろんですが、この機会に「いのちの電話」の活動を広く市民に知ってもらうことも狙いです。外部講師の話をお聞きすることで、「いのちの電話」のボランティアスタッフの研修の機会にもなっています。
事業の内容	講師に上方落語家の桂文我さんをお招きし、「いのちをたいせつに」の演題で話していただきました。文我さんの小咄を交えた軽妙な語り口に、会場は何度も笑いに包まれました。文我さんは「とにかく最後の最後まで生きましょう。生き恥をさらしてもいい。生きていてこそ楽しめる」と笑顔で呼びかけました。
参加者数	170人
参加費用	無料



講演する桂文我さん



会場の様子

福岡いのちの電話 自殺予防公開講座

講演テーマ

いのちをたいせつに

講師 桂文我氏(落語家)

本名:桂文我(あまがひしやまひら)
昭和28年1月15日、三重県北牟婁郡中津市
福岡市在住。福岡県立中央高等学校卒業、
平成7年、立正佼成会に入会。落語家として活動。
平成27年、立正佼成会本部副会長。

【経歴】
昭和33年、ABCに落語家才新人コンクール審査員特別賞
平成2年、立正佼成会本部副会長
平成7年、立正佼成会本部副会長
平成10年、立正佼成会本部副会長
平成13年、立正佼成会本部副会長
平成15年、立正佼成会本部副会長
平成17年、立正佼成会本部副会長
平成19年、立正佼成会本部副会長
平成21年、立正佼成会本部副会長
平成23年、立正佼成会本部副会長
平成25年、立正佼成会本部副会長
平成27年、立正佼成会本部副会長
平成29年、立正佼成会本部副会長
平成31年、立正佼成会本部副会長

2024年
3月20日(水・祝)
14:00~16:00(開場13:30)

会場 レソラホール(レソラ天神 5階)
福岡市中央区天神2-6-55

参加費 無料 定員 150名

主催 社会福祉法人福岡いのちの電話
社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団

後援 福岡県、福岡市、朝日新聞社、KBC

参加申込方法
お申し込みは、事前に自殺予防公開講座希望と希望の上、
姓別・氏名を添えて下記までファックスかメールで申し込みください。
当日お名前をお知らせください。

福岡いのちの電話事務局
〒810-0073 福岡市中央区天神2丁目7-7
FAX.092-721-4343 TEL.092-713-4343
E-mail:find4343@sirius.ocn.ne.jp

最新の情報はこちらをご覧ください。
<http://www.f-inochi.org/>

自殺予防公開講座のチラシ

事業の名称	西部朝日福祉助成金
事業種別	公益事業（福祉啓発・公衆衛生事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	1999年度
事業の概要	九州・山口地区を対象に、地域に根差した社会福祉活動に継続的に取り組んでいる団体に対して助成金を支給しています。
時期	年1回（申請書の提出を受け、2～3月に支給）
助成の目的	地域で続いている地道な社会福祉事業への支援が目的です。使途は問わず、運営費として活用してもらっています。
助成した人数	団体に対する助成
助成総額	45万円
その他	<p>■助成団体 社会福祉法人福岡いのちの電話（福岡市） 社会福祉法人北九州いのちの電話（北九州市） 公益社団法人福岡県交通遺児を支える会（福岡市）</p> <p>福岡いのちの電話と北九州いのちの電話は、それぞれ年中無休・24時間態勢で、深い悩みを抱えている人の無料の電話相談に応じています。ボランティア相談員の高齢化もあって新たな相談員の確保が喫緊の課題です。福岡県交通遺児を支える会は、交通事故で父母らを亡くした子どもたちに奨学金などを贈り続けています。</p>



助成金目録を受け取る各団体のみなさん

事業の名称	第75回保健文化賞
事業種別	公益事業（福祉啓発・公衆衛生事業）
主催	第一生命保険株式会社
後援等	朝日新聞厚生文化事業団、厚生労働省、社会福祉法人NHK厚生文化事業団
事業開始年度	1950年度
事業の概要	健康増進、疾病予防などの保健衛生分野、高齢者・障がい者支援の保健福祉分野、少子化対策等、地域に密着した地道で身近な活動や、実際的な活動を行っている団体や個人を表彰します。 受賞者には感謝状、賞金（団体200万円、個人100万円）、朝日新聞厚生文化事業団賞（トロフィー）などを贈呈しています。
日時	2月1日～4月17日（募集）、12月20日（贈呈式）
場所	明治記念館（東京都千代田区）
事業の目的	保健衛生に従事する方々の功績や労苦に対し、感謝と敬意をささげる。
事業の内容	<p>■第75回受賞者（10団体、3個人）</p> <p>【団体】特定非営利活動法人蜘蛛の糸（秋田県）▽特定非営利活動法人Commune with 助産師（福島県）▽湯沢町ファミリー健康プラン推進委員会（新潟県）▽社会福祉法人弘和会（石川県）▽認定特定非営利活動法人あいち骨髄バンクを支援する会（愛知県）▽食アレスマイルネット（同）▽NPO法人チャイルドヘルプラインMIEネットワーク（三重県）▽一般社団法人KISA2隊（京都府）▽特定非営利活動法人鳥取県自閉症協会ペアレントメンター鳥取（鳥取県）▽特定非営利活動法人ステップバイステップ（熊本県）</p> <p>【個人】高岡晃教（北海道）▽岡本和美（奈良県）▽花田敬士（広島県）</p>
参加者数	
参加費用	



第75回保健文化賞の受賞者ら

事業の名称	朝日チャリティー美術展
事業種別	公益事業（チャリティー事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団、朝日新聞社
後援等	
事業開始年度	2020年度からリニューアルして開催
事業の概要	日本画家、洋画家、陶芸家などの美術家の出品作品をインターネットで展示販売し、収益を社会福祉事業に充てるチャリティー展です。東京で実展示も行いました。
日時	6月9日～21日（ネット展示）、16日～21日（東京会場）
場所	インターネット開催、有楽町朝日ギャラリー（東京会場）
事業の目的	収益の一部を社会福祉事業に充てる。
事業の内容	200人の作家から寄せられた201作品をインターネット上で展示し、サイレントオークション形式で販売。 ■主な出品作家（敬称略） 石踊達哉、井上萬二、井口由多可、今井喬裕、岩波昭彦、大津英敏、大矢十四彦、岡信孝、笠井誠一、川島睦郎、黒木国昭、酒井英利、笹本正明、椎名保、下田義寛、鈴木藏、関谷理、千住博、高梨芳実、伊達良、谷川泰宏、中島潔、中島千波、永瀬武志、中村宗弘、那波多目功一、福井江太郎、福岡通男、藤原秀一、二川和之、松浦安弘、村山明
参加者数	期間中の入札数 465件
参加費用	
収入	落札総額 2308万2000円

事業の名称	朝日チャリティー色紙展
事業種別	公益事業（チャリティー事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団、朝日新聞社
後援等	
事業開始年度	2020年度
事業の概要	著名人や漫画家の方々から寄贈された色紙を販売し、収益を社会福祉事業に充てるチャリティー展です。
日時	2024年2月1日～2月14日
場所	インターネット開催
事業の目的	収益の一部を社会福祉事業に充てる。
事業の内容	73名の著名人や漫画家の方々から寄贈された92作品を、インターネットで、サイレントオークション形式で販売しました（入札開始価格は一律2万円）。 ■主な寄贈者（敬称略） 宇野亜喜良、北見けんいち、小林有吾、小山愛子、佐藤邦雄、高瀬志帆、ちばてつや、ビートたけし、美樹本晴彦、三田紀房、森清範、安彦良和、山中伸弥、よしながふみ、和久井健
参加者数	期間中の入札数 1128件
参加費用	
収入	落札総額 1034万1000円

事業の名称	第73回チャリティーコンサート メサイア
事業種別	公益事業（チャリティー事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団、朝日新聞社
後援等	国立大学法人東京藝術大学（協力）、公益財団法人原田積善会（特別協賛）
事業開始年度	1951年度
事業の概要	東京藝術大学音楽学部の協力を得て、毎年歳末に開催しているチャリティーコンサート。演目は慈善を目的とした演奏会の源流ともいわれるG・F・ヘンデルの「メサイア」。
日時	12月22日
場所	東京藝術大学奏楽堂（東京都台東区）
事業の目的	収益の一部を社会福祉事業に充てる。
事業の内容	<p>オラトリオ「メサイア」の全曲演奏。</p> <p>■出演</p> <p>演奏：藝大フィルハーモニア管弦楽団</p> <p>独唱：東京藝術大学大学院生 藤原優花（ソプラノ）、徳田あさひ（アルト）、田中裕太（テノール）、及川泰生（バス）</p> <p>合唱：東京藝術大学音楽学部声楽科学生</p> <p>指揮：梅田俊明</p> <p>合唱指揮：辻秀幸</p>
参加者数	約1030人
参加費用	SS席＝12000円、S席＝6000円、A席＝5000円
収入	709万7千円（チケット収入、プログラム・ポスター販売、協賛金の合計）



満席の観客を前に、渾身の演奏を披露した

事業の名称	親子で楽しむクリスマスコンサート
事業種別	公益事業（チャリティー事業）
主催	株式会社ソングブックカフェ、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2000年度
事業の概要	子どもから大人まで親子で一緒に楽しめる参加型のコンサート。23回目を迎えた23年度は、クリスマスイブに、有楽町朝日ホールで開催しました。中川ひろたかさん率いるソングブックカフェメンバーらが、音楽やダンス、たくさんのお遊び、絵本の朗読など盛りだくさんの内容をお届けしました。
日時	12月24日
場所	有楽町朝日ホール（東京都千代田区）
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな子どもから大人まで一緒に楽しめる機会とするとともに、保育者が子どもとのかかわりのヒントを得られるようにする。 ・収益を福祉事業に充てる。
事業の内容	<p>■出演者 中川ひろたかさん、鈴木翼さん、ロケットくれよん（山口たかしさん・高田さとしさん）、福田翔さん、gaagaaS（まつむらしんごさん・別府のどかさん）、本田洋一郎さん</p> <p>■内容 世代を超えて愛される名曲「世界中のこどもたちが」のほか、絵本の朗読、子どもたちも一緒に参加できる「あそびうた」などが披露されました。</p>
参加者数	464人
参加費用	前売 3300円 当日 3850円
収入	株式会社ソングブックカフェ様からの寄付 30万円



体を動かすあそびうたでは、会場が一体となり盛り上がった



鈴木翼さんによるパネルシアターの様子

朝日福祉ガイド 本・DVD

朝日福祉ガイドブック

- ・ 四行からはじめる遺言作成 Q & A 1,320 円
- ・ 生き方、逝き方ガイドブック 1,320 円
- ・ なるほど高次脳機能障害 1,320 円
- ・ みんなのうつ 1,100 円
- ・ 認知症とともに 1,100 円
- ・ 自閉症の人たちを支援するということ 880 円
- ・ 自閉症のひとたちへの援助システム 550 円
- ・ 100%あらかん 660 円
- ・ 精神障害者のホームヘルプサービス 880 円

朝日福祉ガイド DVD

- ・ 自閉症の人が求める支援～よくわかる自立のためのアイデア～
全3巻セット 10,890 円、各巻 4,400 円
- ・ 自閉症の人が見ている世界～自閉症の人を正しく理解する～
全3巻セット 10,890 円、各巻 4,400 円
- ・ 自閉症の子どもの評価 生活スキル編
全4巻セット 18,480 円、各巻 4,950 円
- ・ 自閉症の子どもの自立課題
全3巻セット 13,860 円、各巻 4,950 円
- ・ TEACCH プログラムシリーズ～米国ノースカロライナ州にみる自閉症治療教育～
各巻 3,080 円
自閉症児の明日のために～TEACCH のねらいと考え方
親のための TEACCH プログラム
教師のための TEACCH プログラム
青年期・成人期の TEACCH プログラム

※本・DVD ともに価格はいずれも税込。

主な後援・協賛・協力事業一覧

日程	催事	
	主催者 ▽会場	

■本部（東京）

4/9	第43回愛知県聴覚障害者体育大会 愛知県聴覚障害者協会ほか ▽豊橋創造大学アリーナ（愛知県豊橋市）ほか	後援
4/15、30、 5/20・21、27	令和5年度愛知県障害者スポーツ大会 愛知県、愛知県社会福祉協議会 ▽星が丘ボウル（名古屋市）ほか	後援
4/17～19	国際シニア合唱祭「ゴールデンウェーブ in 横浜」 NPO 法人ゴールデンウェーブ ▽横浜みなとみらいホール・大ホール（横浜市）	特別 後援
4/19、5/7、6/11、 8/20、9/3、 11/12・19・30	第20回名古屋市障害者スポーツ大会 名古屋市、市身体障害者福祉連合会ほか ▽名古屋市障害者スポーツセンターほか	後援
5/20	マンドリン&ポルトガルギター MUZIC @ NET / マリオネットコンサート MUZIC @ NET / マリオネット ▽朝日新聞東京本社読者ホール	共催
5/25～27	ウェルフェア 2023～福祉・医療・健康の総合展～ 名古屋国際見本市委員会 ▽吹上ホール（名古屋市）	後援
5/27～28	第38回 DPI 日本会議全国集会 DPI 日本会議 ▽オンライン	後援 助成
6/9	日本聾話学校 チャリティー映画会 日本聾話学校チャリティー映画会実行委員会 ▽日本教育会館一ツ橋ホール（東京都千代田区）	後援
7/1～31	2023年頭頸部外科月間 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 ▽全国各地	後援
7/1	第60回心身障がい問題を考える集い あさみどりの会ほか ▽ウイंकあいち（名古屋市）	後援
7/2	第39回愛知県聴覚障害者大会 愛知県聴覚障害者協会 ▽一色町公民館（愛知県西尾市）	後援
7/7～8	第72回関東聾学校陸上競技大会 関東聾学校体育連盟 ▽正田醤油スタジアム群馬（前橋市）	後援
7/21～ 8/26	第40回福祉施設絵画展 名古屋市社会的養育施設協議会ほか ▽島の駅 SHINOJIMA（愛知県南知多町）ほか	後援
7/26～27	第72回関東聾学校バレーボール大会 関東聾学校体育連盟 ▽武蔵野の森総合スポーツプラザ（東京都調布市）	後援
8/19・20、9/17、 10/15、11/19	第49回愛知心理療育キャンプ 愛知心理療育親の会 ▽刈谷市北部生涯学習センター「かきつばた」ほか	後援
8/29～31	第74回全日本少年野球大会 こども家庭庁ほか ▽久宝寺緑地公式野球場ほか（大阪府八尾市）	後援
8/30	きょうされん第46回全国大会 in 埼玉 きょうされん ▽大宮ソニックシティおよび周辺施設（さいたま市）	後援
9月	第53回朗読録音奉仕者感謝行事 鉄道弘済会ほか ▽全国各地	後援
9/6	第3回全国子ども家庭養育支援地域ネットワークセミナー栃木大会 全国子ども家庭養育支援研究会 ▽栃木県総合文化センター（宇都宮市）	後援
9/10～ 12/10	第71回手足の不自由な子どもを育てる運動 愛知県肢体不自由児協会 ▽愛知県内	後援
9/12	令和5年度 第58回東京都老人クラブ芸能大会 東京都、都老人クラブ連合会 ▽文京シビックホール（東京都文京区）	後援
9/17	公益社団法人日本リウマチ友の会 第63回全国大会 日本リウマチ友の会 ▽ホテルハマツ（福島県郡山市）	後援

日程	催事		
	主催者	▽会場	
9/23	光バンド結成 35 周年記念チャリティーコンサート 愛のサウンドフェスティバル 東京光の家 ▽ひの煉瓦ホール (東京都日野市)		後援
9/24	鳥取県手話言語条例制定 10 周年記念 第 10 回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 手話パフォーマンス甲子園実行委員会 ▽とりぎん文化会館梨花ホール (鳥取市)		後援
9/27~29	H.C.R 2023 第 50 回国際福祉機器展&フォーラム 全国社会福祉協議会・保健福祉広報協会 ▽東京ビッグサイト (東京都江東区)		後援
10 月	第 75 回赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール 愛知県共同募金会 ▽NHK 名古屋放送センタービル (名古屋市)		後援
10/13~15	全日本ろう社会人軟式野球選手権大会 全日本ろう社会人軟式野球連盟 ▽サーティーフォー相模原野球場ほか (相模原市)		後援
10/14	第 44 回全国歯科保健大会 厚生労働省、秋田県ほか ▽あきた芸術劇場ミルハス		後援
10/14、15	第 15 回全国精神保健福祉家族大会~みんなねっと埼玉大会 全国精神保健福祉会連合会 ▽RaiBocHall (市民会館おおみや) (さいたま市)		後援
10/26	第 33 回国民の健康会議 全国公私病院連盟 ▽日本教育会館一ツ橋ホール (東京都千代田区)		後援
10/28	第 21 回本間一夫記念日本点字図書館チャリティーコンサート 日本点字図書館 ▽東京文化会館小ホール (東京都台東区)		後援
10/28、29	リカバリー全国フォーラム 2023 地域精神保健福祉機構 (コンボ) ▽帝京平成大学池袋キャンパス (東京都豊島区)		後援
11/1~3	サイトワールド 2023 NPO サイトワールド ▽すみだ産業会館サンライズホール (東京都墨田区)		後援
11/3~5	第 46 回日本スリーデーマーチ 日本スリーデーマーチ実行委員会 ▽比企丘陵一帯 (埼玉県東松山市一帯)		後援
11/5	第 68 回名古屋市身体障害者福祉大会 名古屋市身体障害者福祉連合会、名古屋市 ▽名古屋市中区役所ホール		後援
11/11	第 20 回本間一夫文化賞 日本点字図書館 ▽日本点字図書館 (東京都新宿区)		後援
11/15	令和 5 年度全国社会福祉大会 全国社会福祉協議会、厚生労働省ほか ▽浅草公会堂 (東京都台東区)		協賛
11/18、19	第 45 回全国視覚障害者将棋大会 日本視覚障害者団体連合 ▽日本視覚障害者センター (東京都新宿区)		協賛
11/25	あいち高次脳機能障害支援フォーラム あいち高次脳機能障害リハビリテーション講習会実行委員会 ▽名古屋市中区役所ホール		後援
12/2	第 21 回高校生福祉文化賞エッセイコンテスト 朝日新聞社、日本福祉大学 ▽日本福祉大学名古屋キャンパス (名古屋市)		後援
12/3	第 62 回愛知県身体障害者福祉大会 愛知県身体障害者福祉団体連合会ほか ▽あま市美和文化会館		後援
12/4~6	第 61 回弘済学園わたしたちが創る展 鉄道弘済会 ▽JR 東京駅 (東京都千代田区)		後援
12/9、10	第 27 回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会 埼玉聴覚障害者福祉会 ▽埼玉県民活動総合センター (埼玉県伊奈町)		後援
12/22	第 72 回東京都社会福祉大会 東京都社会福祉協議会 ▽東京都庁第一本庁舎 (東京都新宿区)		協賛
12/22	第 71 回愛知県社会福祉大会 愛知県ほか ▽愛知県体育館ドルフィンズアリーナ (名古屋市)		後援
12/24	浦和学院高等学校吹奏楽部 第 18 回チャリティーコンサート 浦和学院高等学校吹奏楽部 ▽さいたま市文化センター大ホール		後援

日程	催事		
	主催者 ▽会場		
2/3、4	天皇杯第49回日本車いすバスケットボール選手権大会 日本車いすバスケットボール連盟 ▽東京体育館（東京都渋谷区）		後援 助成
2/28～3/3	第58回名古屋市障害者作品展 名古屋市、名古屋市身体障害者福祉連合会 ▽市民ギャラリー矢田（名古屋市）		後援
3/1～31	2024年耳鼻咽喉科月間 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 ▽全国各地		後援
3/2	メンタルヘルスの集い 日本精神衛生会 ▽有楽町朝日ホール（東京都千代田区）		後援
3/3	第42回耳の日記念聴覚障害者と県民のつどい 愛知県聴覚障害者協会ほか ▽ウイルあいち（名古屋市）		後援

■大阪事務所

4/1～5/25	2023年度「地域保健福祉研究助成」「シニアボランティア活動助成」「ビジネスパーソンボランティア活動助成」 大同生命厚生事業団 ▽大同生命大阪本社（大阪市）		後援
4/9、6/4、 8/20	第13回全九州ろう社会人軟式野球大会 全九州ろう社会人軟式野球連盟 ▽熊本市水前寺野球場、福岡県久留米市宝満川野球場、大牟田市延命球場		後援
4/19～21	バリアフリー2023 大阪府社会福祉協議会、テレビ大阪、テレビ大阪エクスプロ ▽インテックス大阪（大阪市）		後援
4/22	アサコムホール2023MUZIC@NET／マリオネットコンサート MUZIC@NET／マリオネット ▽アサコムホール（大阪市）		共催
5/14、28	第61回北九州障害者スポーツ大会 北九州市、北九州市身体障害者福祉協会ほか ▽北九州市障害者スポーツセンターほか		後援
5/20	「全国遷延性意識障害者・家族の会」関西ブロック講演会 全国遷延性意識障害者・家族の会 関西ブロック ▽エルおおさか 研修室2（大阪市）		後援
5/31～6/5 6/8～13	第57回西部伝統工芸展 日本工芸会ほか ▽福岡三越（福岡市）、鶴屋百貨店（熊本市）		協力
6/3	バンビーナの会 設立20周年記念事業 記念講演会&交流会「今日も一日 楽しかった」～ダウン症のイケメン・あべけん太～ 日本ダウン症協会 奈良北支部 バンビーナの会 ▽DMG MORI やまと郡山城ホール 大ホール（奈良県大和郡山市）		後援
6/17～18	第33回日本車いすツインバスケットボール選手権大会 日本バスケットボール協会、日本パラスポーツ協会、日本車いすツインバスケットボール連盟 ▽大浜だいしんアリーナ（大阪府堺市）		後援
6/24～25	全国児童養護問題研究会第50回記念大阪大会 全国児童養護問題研究会 ▽大阪府立男女共同参画・青少年センター（大阪市）		後援
7/5、6	第72回近畿児童自立支援施設野球大会 京都府、近畿児童自立支援施設協議会 ▽亀岡運動公園（京都府亀山市）ほか		後援
7/9	第41回日本ライトハウスチャリティコンサート 日本ライトハウス ▽ザ・シンフォニーホール（大阪市）		後援
7/15、16	中村裕杯アジアドリームカップ2023国際車いすバスケットボール大会 日本車いすバスケットボール連盟、大分県車いすバスケットボール振興協議会 ▽べっぷアリーナ（大分県別府市）		協賛
8月～ 2025/7	第59期 電話相談ボランティア養成講座 関西いのちの電話 ▽博愛社5階会議室（大阪市）		後援
8/2～6	第44回「子どもたちの讃歌」展 大阪府・市教育委員会、大阪特別支援教育諸学校造形教育研究会 ▽江之子島文化芸術創造センター（大阪市）		後援

日程	催事		
	主催者	▽会場	
8/4~8	第40回土と水と緑の学校 アジア協会アジア友の会、関西教育旅行株式会社、和歌山県新宮市、新熊野体験研修協会 ▽和歌山県新宮市高田地区一帯、高田中学校など		後援
8/10	第68回在宅肢体不自由児海の療育キャンプ【中止】 福岡県、福岡県肢体不自由児協会、北九州市、福岡市、当事業団 ▽福岡県立少年自然の家「玄海の家」		共催
9/3	第60回チャリティー大茶会 茶道裏千家淡交会北九州支部 ▽小倉井筒屋パステルホール（福岡県北九州市）		後援
10/8	第28回大阪YMCA インターナショナル・チャリティーラン2023 大阪YMCA、日本YMCA 同盟、ワイズメンズクラブ国際協会西日本区阪和部・中西部 ▽花博記念公園鶴見緑地 特設コース（大阪市）		後援
10/9、14~ 16、21~22	第41回スポーツフェスタ2023大阪 大阪知的障がい者スポーツ協会 ▽ヤンマースタジアム長居（大阪市）ほか		後援
10/22	第51回全大阪ろうあ者文化祭 大阪聴力障害者協会 ▽長居身体障害者スポーツセンター（大阪市）		後援
10/25	第73回施設従事者激励会 大阪民間社会福祉事業従事者共済会 ▽アートホテル大阪ベイタワー（大阪市）		後援
10/27	ファインエリアフェスティバル2023 ファインエリアフェスティバル実行委員会 ▽大阪府立障がい者交流促進センター（ファインプラザ大阪。堺市）		後援
10/28	第57回肢体不自由児者を支援するチャリティーバザー 大阪府肢体不自由児者父母の会連合会 ▽大阪府八尾市山城町一丁目第1公園		後援
11/5、 11/25~26	自閉スペクトラム症など発達障がいの児童・生徒のキャンプ「のびのびキャンプ」 大阪府青少年活動財団、関西テレビ青少年育成事業団、アサヒキャンプ ▽吉野宮滝野外学校（奈良県吉野町）		後援
11/10~ 12/10	第71回「手足の不自由な子どもを育てる運動」 福岡県肢体不自由児協会、日本肢体不自由児協会 ▽福岡市など福岡県内主要都市		後援
11/18	2023年度医療社会事業従事者講習会 大阪医療ソーシャルワーカー協会 ▽オンライン		後援
11/22	第21回大阪救護施設合同文化事業 大阪救護施設合同文化事業運営委員会 ▽シティプラザ大阪・大宴会場、SYUN-旬-（大阪市）		後援
11/29	令和5年度大阪府社会福祉大会 大阪府社会福祉協議会 ▽大阪国際交流センター・大ホール（大阪市）		後援
12/17	認知症講演会 大阪認知症研究会 ▽千里ライフサイエンスセンター5F ライフホール（豊中市）		後援
2024/1/19 ~26	第43回「障がいのある子どもに学ぶ」図工展 大阪市小学校教育研究会特別支援教育部、大阪市小学校特別支援教育担任者会 ▽大阪市教育会館（大阪市）		後援
2/16~18	2024国際親善女子車いすバスケットボール大会 日本車いすバスケットボール連盟、大阪市障害者福祉・スポーツ協会、大阪市 ▽Asueアリーナ大阪（大阪市）		後援
2/26~3/3	第42回「肢体不自由児・者の美術展」（福岡エリア） 福岡県肢体不自由児協会、日本肢体不自由児協会 ▽福岡市役所、アクロス福岡（福岡市）		後援
3/9	令和5年度「福祉の就職総合フェア SPRING in OSAKA」 大阪府、大阪府社会福祉協議会・大阪福祉人材支援センター ▽OMM（大阪市）		後援

収支／寄付報告

2023年度 事業活動計算書より抜粋
(2023年4月1日～2024年3月31日)

単位：円

サービス活動収益	212,286,886	サービス活動費用	469,937,639
事業収益		事業費用	
高齢者福祉事業	117,273	高齢者福祉事業	28,285,734
児童福祉事業	1,023,637	児童福祉事業	128,113,012
障害福祉事業	26,364	障害福祉事業	33,436,292
医療と公衆衛生事業	0	医療と公衆衛生事業	1,419,590
福祉啓発推進	0	福祉啓発推進	680,225
朝日ガイド事業	1,124,701	朝日ガイド事業	538,186
チャリティー事業	37,301,363	チャリティー事業	26,564,837
経常経費寄附金収益	172,693,548		
		人件費	177,631,802
		事務費	72,864,626
		減価償却費	110,462
		徴収不能額	292,873
サービス活動外収益	2,128,945	サービス活動外費用	0
受取利息配当金収益	2,128,945		
		経常増減差額	△ 255,521,808

詳細は、事業団のホームページをご覧ください。

中期計画 2025 ～新しい福祉のつながりをめざして～

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

はじめに

「新型コロナウイルス」の感染拡大は、全世界の人々の生活様式を一変させました。社会情勢はもちろん社会福祉の領域における変化も、以前よりもスピードが増しています。

その中で、私たち社会福祉法人がめざすべきもの、達成すべき事業目標も、いま、大きな変革の時期を迎えております。地域を育み、福祉を支える人を育むことが、引き続き時代の要請となっていると考えます。

事業団はこれまでも、寄付者のみなさまや福祉の担い手の方々とともに歩み、社会のニーズに応える事業を展開してきました。ガバナンス強化や運営の透明性の向上への取り組みを継続しながら、事業団の運営を常に見直し、「だれもが安心して暮らせる社会」の実現をめざし、事業を展開することを心がけてまいりました。

事業展開においては、「コロナ禍にあっても、工夫を施して実施できる事業は可能な限り実現させる」という方針のもと、オンラインシステムなどを積極的に活用し、これまでは集客を前提としたチャリティー事業であっても、事業にかかわるすべての人たちの安全・安心を確保したうえで実施できるような仕組みを整えてきました。

このような情勢の中、このたび、従前の「中期計画 2020」の改定を行うことにしました。

2028年には事業団設立から100年を迎えます。めざすべき理念はそのままにしながらも、社会情勢に合わせた形にリニューアルすべく、新たな中期計画づくりに着手しました。

この間、職員全員が参加するミーティングを招集して意見交換などを重ね、今回、おおむね3年先までの理念、人、事業、財務、情報についての基本的な方向性をまとめました。

この中期計画 2025では、今まで大切にしてきた私たちの社会的使命（ミッションステートメント）を土台とし、これから先の時代に求められる福祉に対応すべく「地域づくりへの貢献」「福祉を支える人づくり」、それを支える「社会的な支援の輪の拡大」の三つの軸の視点を大事にして、寄付者の皆さまの思いをつなぎ、新しいソーシャルアクションから社会を変えていく姿勢を明確にしました。

昨今の福祉を取り巻く環境の変化、特に従来分野、対象ごとに実施する支援（縦割り）の福祉ではなく、複数の分野、世代にかかわる「全世代型福祉」への取り組みに力を入れ、今まで育んできた事業団の事業推進のノウハウを基に積極的に取り組んでまいります。

財務面では、積立資産の用途について、事業推進の理念にそって引き続き明確にしています。

また、今回の改定では、事業団の大切な資産である職員の能力やモチベーションがいつそう高まるよう、スキルアップの場を増やし、働きやすい職場づくりに力を入れます。新しい働き方、寄付、広報などに関しても新しいアイデアを基に積極的に推進します。

1. 事業団の社会的使命

① ミッションステートメント

自らの方向性を定め、常に自らを刷新していく指針とすべく事業団の「ミッションステートメント」を職員で共有します。

朝日新聞社の関連団体として、地域と人を育み、支援の輪をつなぐなかで、誰もが自分らしく安心して暮らしていける社会の実現を、多くの団体や支援者と連携しながらめざします。

このミッションステートメントには、複数の領域にかかわるような新しい福祉問題に向き合っ、事業団にしかできない形での事業を積極的に進め、多くの方々の共感を得たいという思いが込められています。引き続き「地域づくりへの貢献」「福祉を支える人づくり」、それを支える「社会的な支援の輪の拡大」の三つの軸の視点を大事にします。そして、ヤングケアラー等の支援や発達障がいへの対応など、困難な状況にいる人にエンパワメントを促すことのできる施策や、必要な人に必要な支援が届くよう、人や社会に働きかけていく熱意を大切にしたいと思います。

〈ミッションステートメント〉
先駆的に取り組んできた歴史を踏まえて
未来を見すえ、地域と人を育み、支援の
輪をつなぎ、お互いに支え合いだれもが
安心して暮らせる社会をつくる

地域を育み支援
人を育み支援
支援の輪づくり
(チャリティー事業・収益事業)

支え合う
安心社会の実現

② 職員の活動モットー（事業への向き合い方）

次代の福祉を担う組織となっていけるよう、職員の活動モットーをかかげます。実施する事業が生み出すその先の「つながり」「展開」を考え、また事業における事業団の「独自性」はどこにあるのかを考えながら、常に仕事を刷新する姿勢で取り組みます。また支援者・寄付者の皆様の視点を尊重し、立場の異なる意見や新たな発想に謙虚な姿勢で対応し、事業を進めます。

職員の活動モットー

- ・ 支援者・寄付者の思いをつなぐ
- ・ 時代に必要とされる仕事をめざす
- ・ 社会的な視点を意識する
- ・ 新たな課題の発見につとめる
- ・ スピード感をもって仕事にあたる
- ・ 効果、効率を追求する
- ・ 質の高い仕事をめざす
- ・ 常に仕事を刷新する
- ・ 持続可能な形をめざす
- ・ 当事者の声を大切にする

2. 事業展開

① 分野越境の視点

事業は社会的使命の達成に向けた手段として位置づけます。最新の福祉情勢を見つめながら、これまでの視点・役割にとらわれず、先進的な視点を持ち常に事業を見直し進めていく、「分野越境」の視点を大切にします。

②全世代型福祉

複数の世代にかかわる「全世代型福祉」への取り組みもその一つです。各事業は当事者、そして支援者の思いを大切に、また、常に見直し、新しいニーズに見合った形で事業を絶えず刷新していくことで、すぐれた事業体としての運営を担保していきます。

③独自性を意識

事業団にしかできない事業は何なのかを常に意識しながら、「企画集団」として独自の視点を持ち、旧来の児童、高齢者、障がい者といった福祉領域のサービスのみにとらわれることなく、時には分野を横断する概念を取り込み、発展的に展開します。

また企画立案の際には、事業の最終目標、終着点を必ず想定することで、継続ありきではなく常に事業を見直していくことを心がけます。そして、社会の変化の中で、事業目的を達成したと判断した場合には、事業の刷新を行います。

3. 拠点と要員

①全国規模で対応

事業団は22年度より東京事務所・大阪事務所の2拠点体制となりました。「全職員が一丸となって全国を対象に事業を運営していく」を念頭に、限られた人数の職員が力を発揮し、連携を進めていくことをめざし、オンラインシステムなども活用し、継続的に事務所にとられない事業の推進ができる体制づくりを進めます。今後も職員の交流を進め、地域性の高い事業をそれぞれの事業所で行う場面でも、両事務所が連携し進めていけるような環境を整えていきます。

大きな災害時のBCP対応なども見据えて、人と事業を分散させつつも、効率的な事業展開ができるよう引き続きつとめます。

②地域にも積極的に貢献

事業団が所在する東京都中央区や大阪市の地域で実施している地域福祉事業を大切に継続していきます。また地域の様々な団体などとの連携を継続しながら、今後考えられる新しいつながりの形などについても引き続き可能性を探っていきます。

③適正な人数配置

全国展開を継続する一方、それぞれの地域事情に応じたきめ細かい事業展開を両立させるため、両事業所に必要な人員を配置していきます。地域別事業費（費消事務所ベース）の割合なども参考にしながら、活動に必要な人員配置を行い、財務的に安定した運営をめざしていきます。

④新しい働き方

質の高い福祉事業の展開には、職員の質の向上が不可欠です。注力すべき事業に関する職員研修などを充実させるほか、常に新しい視点で取り組む福祉活動を客観的に評価検討し、イノベーションしていきます。

また、コロナ禍で感染対策の一環として運用を開始した「在宅勤務」については、そのメリットを生かし、それぞれの職員が特性を生かし、多様な働き方ができるような方策を検討します。

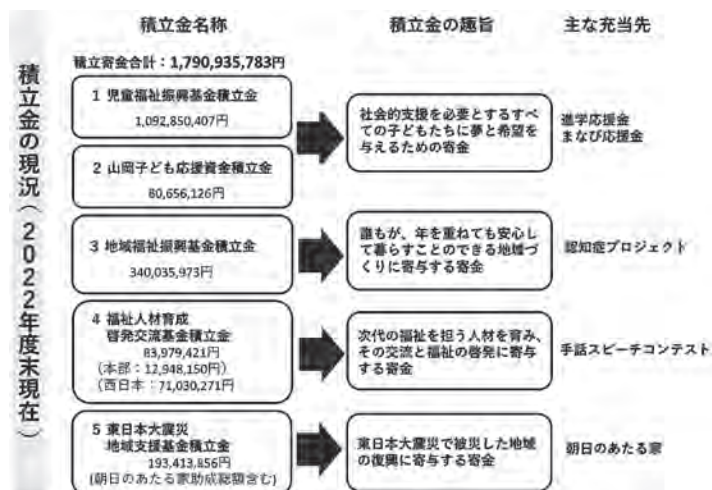
そのため必要なインフラ等の整備は今後も進めてまいります。

また育児や介護時の就業を支えるための方策や、現在60歳の定年制度についても併せて検討し環境整備に取り組みます。

4. 財務戦略・ガバナンス強化

①「次世代型積立金」

近年の福祉は、多分野・多領域にまたがる問題が複雑化しています。児童、障がい者、高齢者という旧来の枠組みだけでは対応しづらい状況があります。これに対応するために積立金を「児童福祉振興基金」「山岡子ども応援資金」「地域福祉振興基金」「福祉人材育成啓発交流基金」「東日本大震災地域支援基金」の5つに分けて設定しました。今後も、それぞれに該当する事業について各積立金から各事業に、計画的かつ適切にお金を使っていきます。



②新しい収入源の確保に注力

現在の年間事業規模は4~5億円程度で推移しています。今後、寄付金収入やチャリティー事業の収入が落ち込むおそれがあり、安定的な資金的な裏づけのない事業団にとっては、収益源をまかなう収益事業を新たに開拓する必要があります。また、安全性に留意したうえで積立資産の運用を検討します。

寄付については、より多くの皆さまに共感をいただける事業を引き続き実施しながら、新規の寄付者を獲得できるように展開をしていきます。近年、スタートさせたクラウドファンディングや遺贈に関する取り組みを更に充実していきます。また、企業協賛や事業ごとの企業とのタイアップなどについても研究を進めていき、今までとは違った新しい支援をいただけるよう取り組んでいきます。

公益事業改革も引きつづき継続します。特にチャリティー事業については、収益の見通しなどを常に検証し、定期的に事業実施の継続について検討を行っていきます。実施するチャリティーが、その実施を通じ、新しい効果やつながり、新しい支援者を増やすことができているかどうか大切な判断基準としていきます。

③財務情報の透明化と管理の徹底

社会福祉法人に対するガバナンス徹底の要請はますます強まっています。事業の収支については、事業ごとのフローバランスを注視、全体的収入に応じた支出規模となるように、厳密な管理をしていきます。事業の妥当性、会計の透明性を確保するため、引き続き監査法人等による会計監査も実施します。加えて、職員が事業企画に注力でき、かつ効率的な経理処理を行うため、ペー

パーレス化などへの取り組みも進めていきます。

④柔軟なマネジメント

たとえ、実施することを年度当初に決めた事業であっても、ガバナンスの徹底、リスク低減の努力などがなされていなければ、直前であっても実施を見送ります。

事業を進める際には上司と部下が緊密に連絡、意見交換を交わしつつ、前向きに議論をしながら、最新のニーズにそった、意義のある事業を手がけていきます。

また、現在だけでなく、将来考えられる事業経費や考えられるリスクなどについても、つねに数年先の将来像を描きながら、運営してまいります。

5. 広報展開

SNS（ソーシャルネットワーク）も積極的に活用

事業団では、SNS上のPR活動も不可欠と考え、法人独自のホームページの運営に加え、インスタグラム、X、フェイスブックなどを活用しています。事業にかかわった方の紹介や思いの発信を行うことで、事業の趣旨などについて幅広くご理解をいただけると考えています。

SNSの特性である、「双方向のやりとり」についても、反応やつながりをダイレクトに感じ、つないでいくことができるものだと理解しています。運営におけるルールなども必要に応じて見直ししながら、今後も積極的に活用していきます。

また、事業団の支援者の多くが購読する朝日新聞を使った広報・PRについても、効果的な新聞メディアの活用法などを研究し、多くの方々のご支援につながるような定期的な情報発信を検討したいと考えております。

おわりに

この中期計画は、現在の社会情勢の中で、事業団が目指すべきもの、大切にしたいものを職員全員で考えた内容になっています。この度の計画改定で、引き続き皆さまから求められる社会福祉法人としての社会的役割、そして事業団としてのこれからの社会的使命を方向づける、重要な役割を果たすものと考えています。

今回、おおむね3年先までの方向性ということでまとめましたが、最新の福祉ニーズに応えるために修正が必要であれば、その期中であっても速やかに変更していきます。常に時代に対応した事業を展開していく姿勢を貫きたいと思えます。すべての職員の、またご支援ご協力いただいている方々の思いが、本計画をもとに具現化され、新しい福祉のつながりをつくっていただけるよう、さらに努力してまいります。

名簿

理事・監事・評議員名簿

(2024年3月31日現在、理事6人 監事2人 評議員7人)

理事長	藤井 龍也	朝日新聞社顧問
業務執行理事	是永 一好	朝日新聞厚生文化事業団理事
理事	炭谷 茂	社会福祉法人恩賜財団済生会理事長 元環境事務次官
同	服部万里子	服部メディカル研究所所長
同	早瀬 昇	社会福祉法人大阪ボランティア協会理事長
同	三国 治	元社会福祉法人こどもの国協会常務理事・園長
監事	亀岡 保夫	公認会計士 大光監査法人会長
同	狩野 信夫	社会福祉法人けやき福祉会常務理事（業務執行理事）
評議員	石渡 和実	東洋英和女学院大学名誉教授
同	大谷 泰夫	公立大学法人神奈川県立保健福祉大学理事長
同	大塚 晃	一般社団法人日本発達障害ネットワーク副理事長
同	杉村 全陽	社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団事務局長
同	高橋 博則	社会福祉法人東京都社会福祉協議会事務局長
同	水野 雅生	ミズノプリテック株式会社社長
同	山田 優	朝日新聞社 CSR 担当補佐兼 CSR 推進部長

職員名簿 (2024年3月31日現在)

【本部】（東京）

事務局長	笠原章宏
事業第一部長	野崎貴士
事業第二部長	宮前賢
管理担当部長	森浦浩
広報担当部長	河田有子
	落合すが子
	勝見文子
	古屋厚子
	中村宣人
	古海慶太
	松岡百合

【大阪事務所】

西日本事業部長	
兼大阪事務所長	中谷和司
	小倉玲子
	藤本祐子
	森田英枝

2023 朝日の社会福祉

令和5年度事業報告

- ホームページ : <https://www.asahi-welfare.or.jp/>
- Facebook : <https://www.facebook.com/asahiwelfare/>
- Twitter : https://twitter.com/asahi_welfare
- Instagram : <https://www.instagram.com/asahiwelfare/>



朝日新聞厚生文化事業団

■ 本部

〒104-8011 東京都中央区築地 5-3-2 朝日新聞東京本社内
電話 03-5540-7446 ファクス 03-5565-1643

■ 大阪事務所

〒530-8211 大阪市北区中之島 2-3-18
電話 06-6201-8008 ファクス 06-6231-3004

※名古屋事務所は2022年8月31日、西部事務所は2023年2月28日に閉鎖しました。
名古屋事務所は本部、西部事務所は大阪事務所で業務を引き継ぎます。